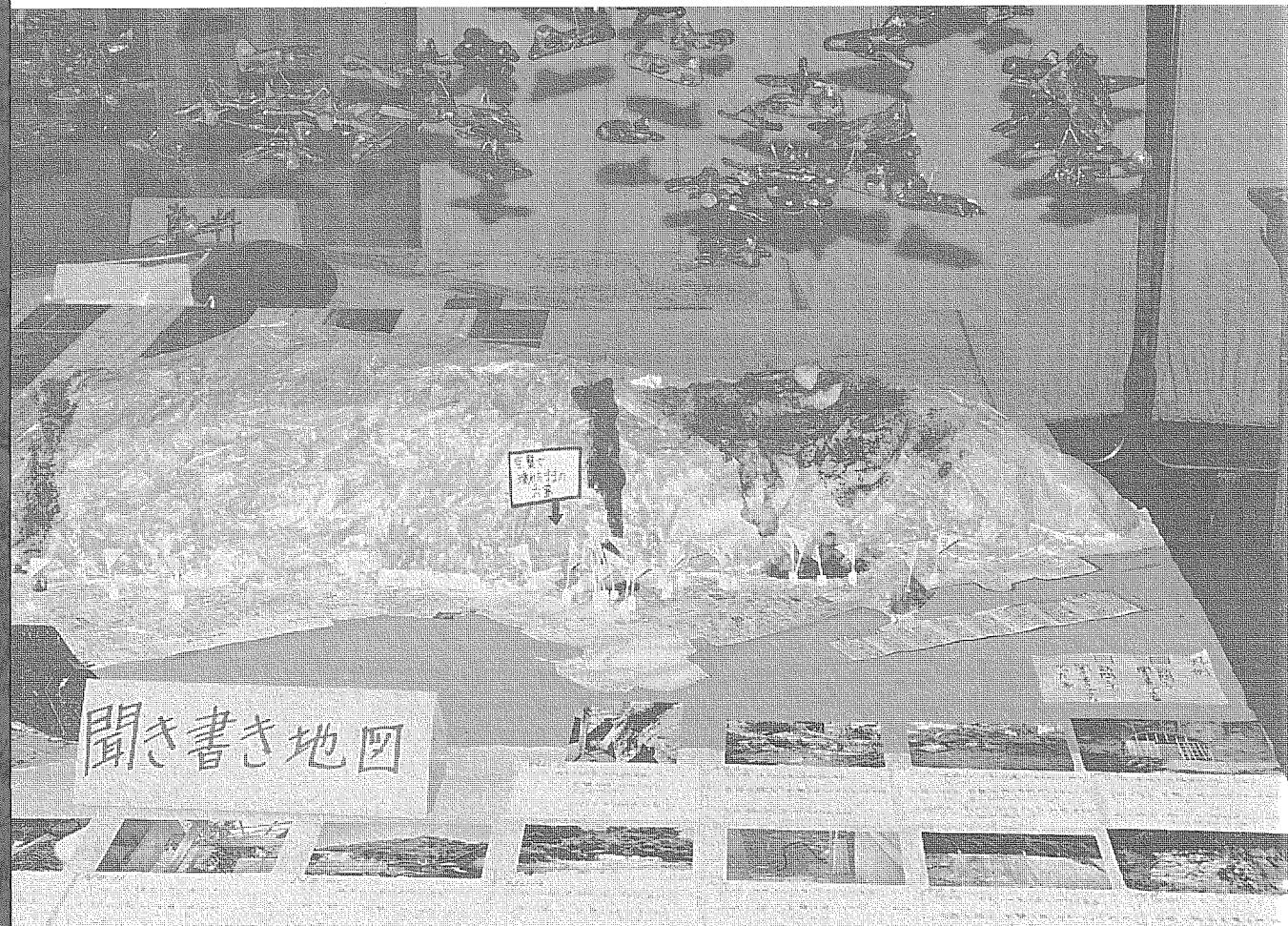


受け継ごう50年目の平和を

—長浜・小坪の[第二次大戦体験]聞き書き—



呉市立長浜中学校



はじめに

呉市立長浜中学校
校長 西村 忠顯

呉市立長浜中学校は、広島県南西部の瀬戸内海に面した呉市広町の長浜・小坪地区にあります。第二次大戦以前、呉市は、鎮守府設置によって飛躍的に拡大していった軍都でした。本校のすぐ近くにも第11海軍航空廠が置かれ、勤労動員や学徒動員の方達が全国から集められ、兵器の開発・製造に従事していました。そのため、空襲は熾烈を極め、第二次大戦下の生活を一層悲惨なものとしました。しかし、敗戦から50年を経た現在、その事実を知っている中学生はほとんどないのが実情です。

この冊子は、映画「ベトナムのダーちゃん」の鑑賞・学習をきっかけに、「自分達が生まれ育った町で、第二次大戦中何があったのか。地域の方々の戦争体験と戦争への思いを知りたい。そして、それを受け継ぎたい。」という生徒達の抑えがたい衝動から生まれました。渴水に砂ぼこりの舞う暑い夏の日々、生徒達は汗を流しながら「第二次大戦体験の聞き書き」をするためにおずおずと地域を回り始めました。そして、戦争を体験された方々の、予想もしなかった重く深い様々な思いを初めて知り、驚き、打たれ、絶句しました。

それ以後、秋の深まる文化祭まで、一心に「聞き書き」の整理・学習を行い、展示の準備を進めたのは、「大切なものを自分達に託された」という実感でした。このような出会いによって集められた「聞き書き」を記録として残すことは、敗戦後50年目を迎え、戦争を体験された方々の高齢化と共に戦争の記憶が消えようとしている今日、非常に意味あるものであると信じます。

目次

はじめに

●「第二次大戦体験の聞き書き」の概要	-----	3
1 新聞記事にまとめられた概要		
2 聞き書きの概要		
3 聞き書き地図		
4 「聞き書き地図」にある防空壕等		
5 概要の詳細		
●空襲	-----	24
1 広・長浜・小坪最大の空襲		
2 5月5日の被害の程度		
3 空襲のときの様子・気持ち		
4 呉軍港防空体制		
●日々の生活	-----	32
1 新聞記事からわかる日々の生活		
2 生活の仕方		
3 つらかったこと		
4 楽しかったこと		
●衣食住	-----	40
1 衣生活		
2 食生活		
3 住生活		
●敗戦直後	-----	49
●生活用語	-----	51
●年表	-----	60
●生徒感想文から	-----	64
●資料	-----	69
1 「聞き書き」で提供していただいた貴重な資料		
2 「聞き書き」に協力してくださった方々		

おわりに

●「第二次大戦体験の聞き書き」の概要

1. 新聞記事にまとめられた概要

1994年(平成6年) 11月16日 水曜日

享月

四

吳市立長浜四丁目、長浜中学校(西村忠顯校長)の二年生六十一人が校区内のお年寄り百三十一人に太平洋戦中の空襲の模様などを聴き、立体模型や食事、服装をつくりて当時を再現した。「受け継ぐ五十年目の平和を」と題し、十六日の文化祭で発表する。

生徒は夏休みに手分けして校区内のお年寄り宅を回った。質問は衣食住と空襲など。学校を中心とした地区を千五百分の一の立体模型にして、防空壕(ごう)を示した。全部で五十カ所が判明し、道路脇わが二千八カ所、海岸八カ所、神社六カ所などなどといふた。

証言から「子供がちぢき部隊」という戦争中の募金用の竹筒も再現された。筒には子どもの名前を書き、子供の小遣いを国防献金に回すように呼びかけたといふ。防空壕、もんべや

吳の長浜
中学校

立体模型で臨場感

同校区は瀬戸内海に面した長浜、小坪地区。近くに旧広海軍工廠(じよこう)があり、米軍機の進入経路の下にあたっていた。空襲の

米軍機は百二十機という記録があり、紙粘土でつくった同数の模型機をつるし、鳥居や墓を調べ、写真に撮った。

臨場感を高めた。今も残る

追体験し、平和を実感し

た。

銃弾の跡や空襲で半壊した

事も実際につくり、歴史を

追体験し、平和を実感し

た。

すいとん、芋のツルの煮込

みなど当時の生活用品、食

事も実際につくり、歴史を

追体験し、平和を実感し

た。

2. 聞き書きの概略

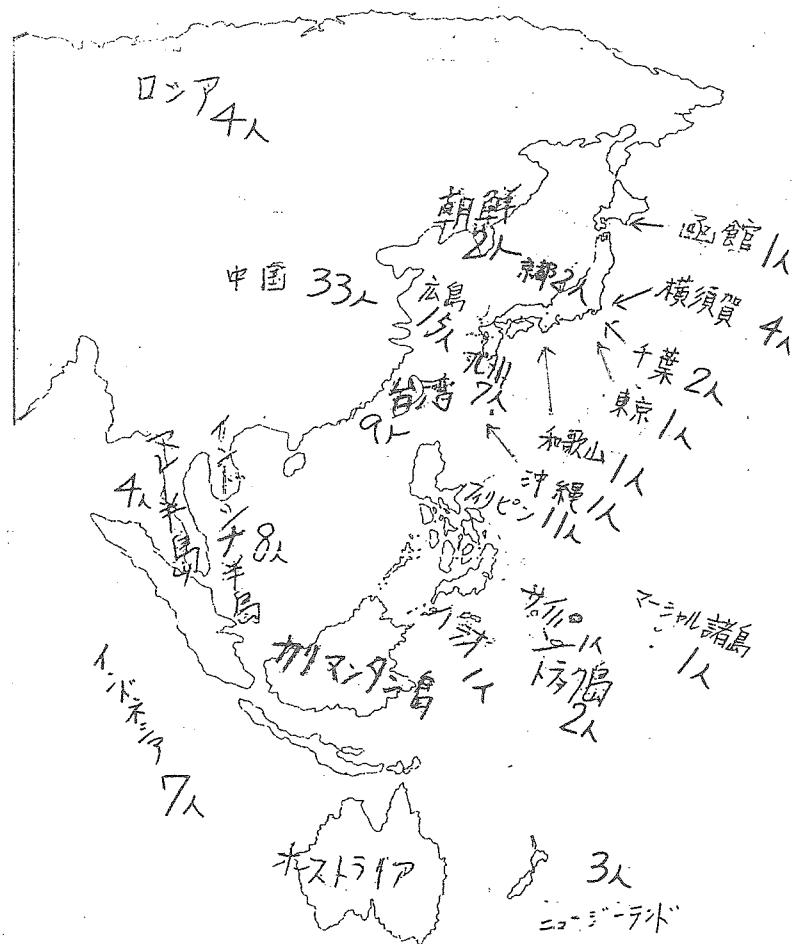
- | | |
|---------------|------------------------|
| 1. 聞き書きした日時 | 1994(平成6)年 7月20日～8月31日 |
| 2. 聞き書きした生徒 | 吳市立長浜中学校 第二学年 61名 |
| 3. 訪問した家 | 204件 |
| 4. 聞き書きできた家 | 131件 |
| 5. 聞き書きした合計時間 | 101時間57分 |

6. 話してくださいった方の
年 令

年 令	人 数
50~60才	6人
60~69才	45人
70~79才	51人
80~89才	26人
90~99才	3人

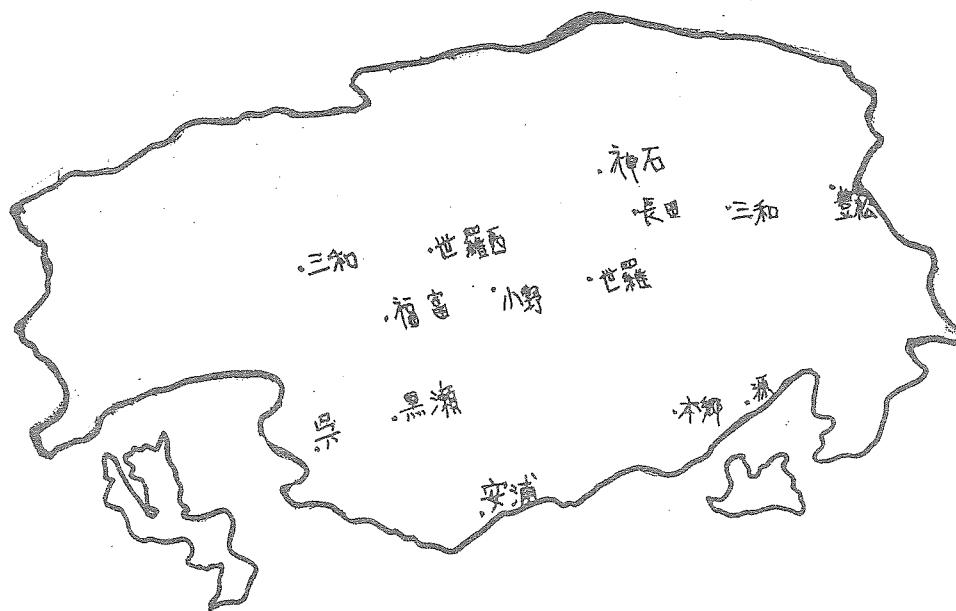
7. 兵隊になっていた人 86人

8. 兵隊で行っていた場所



9、疎開していた人 21人

10、疎開した場所



11、戦争のために死んだ人 19人

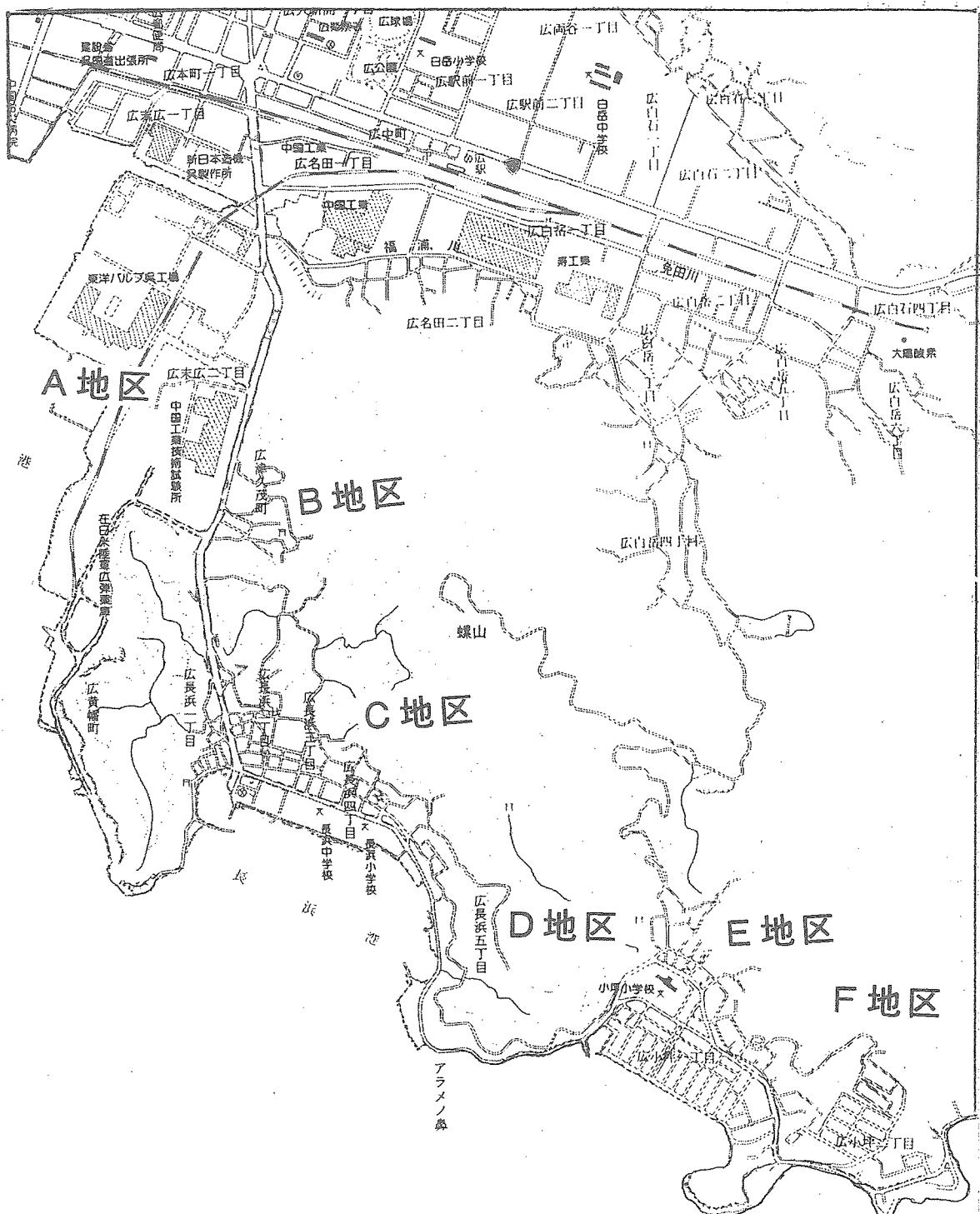
12、戦争のためにけがをした人 10人

13、防空壕の数

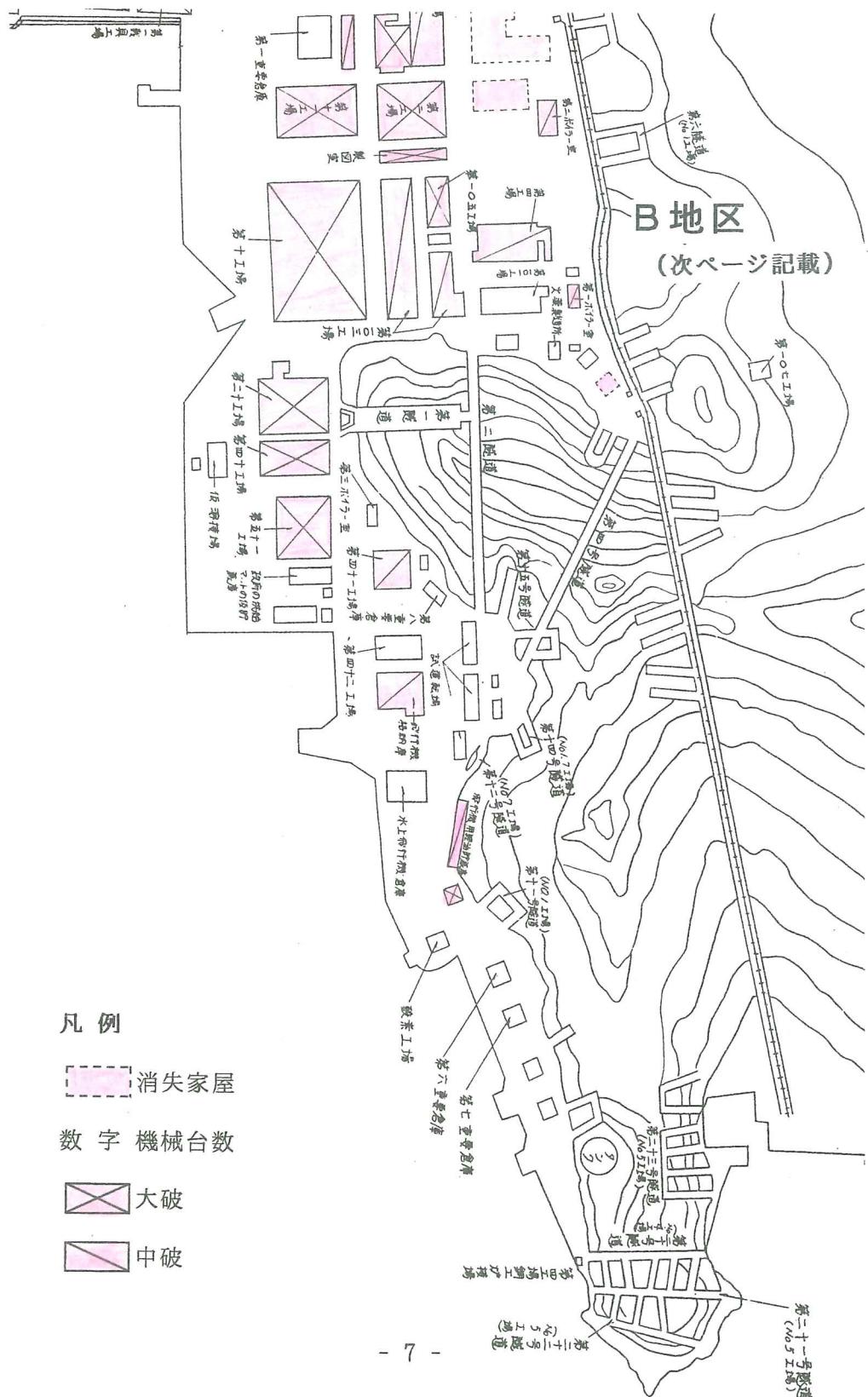
場 所	個 数
道路沿いの山	28個
家	4個
山	3個
海 岸	8個
神 社 、 宮	4個
学 校	1個

3. 聞き書き地図

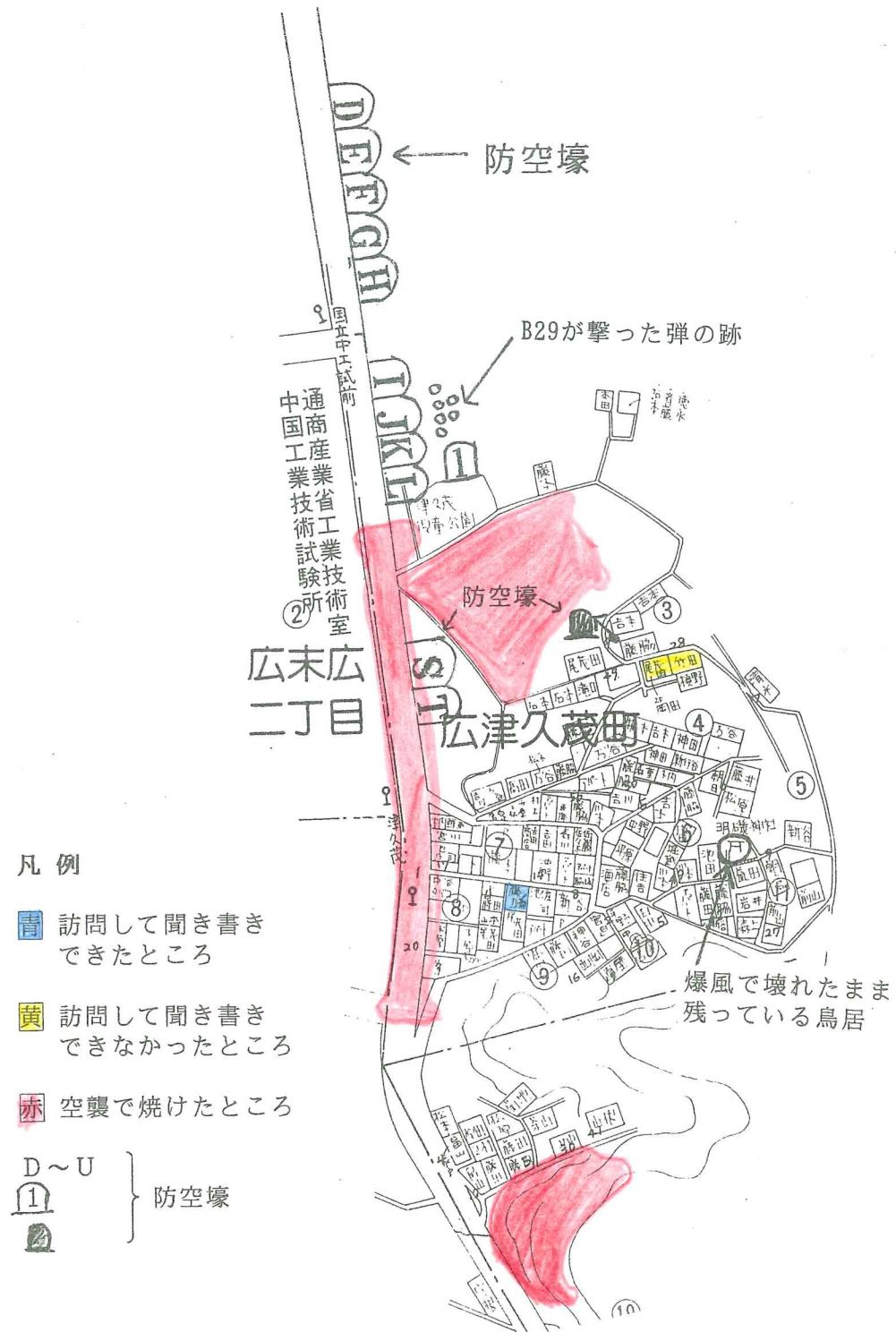
◆長浜中学校付近の全体地図



◆ A (黄幡) 地区…旧第11海軍空廠があつた



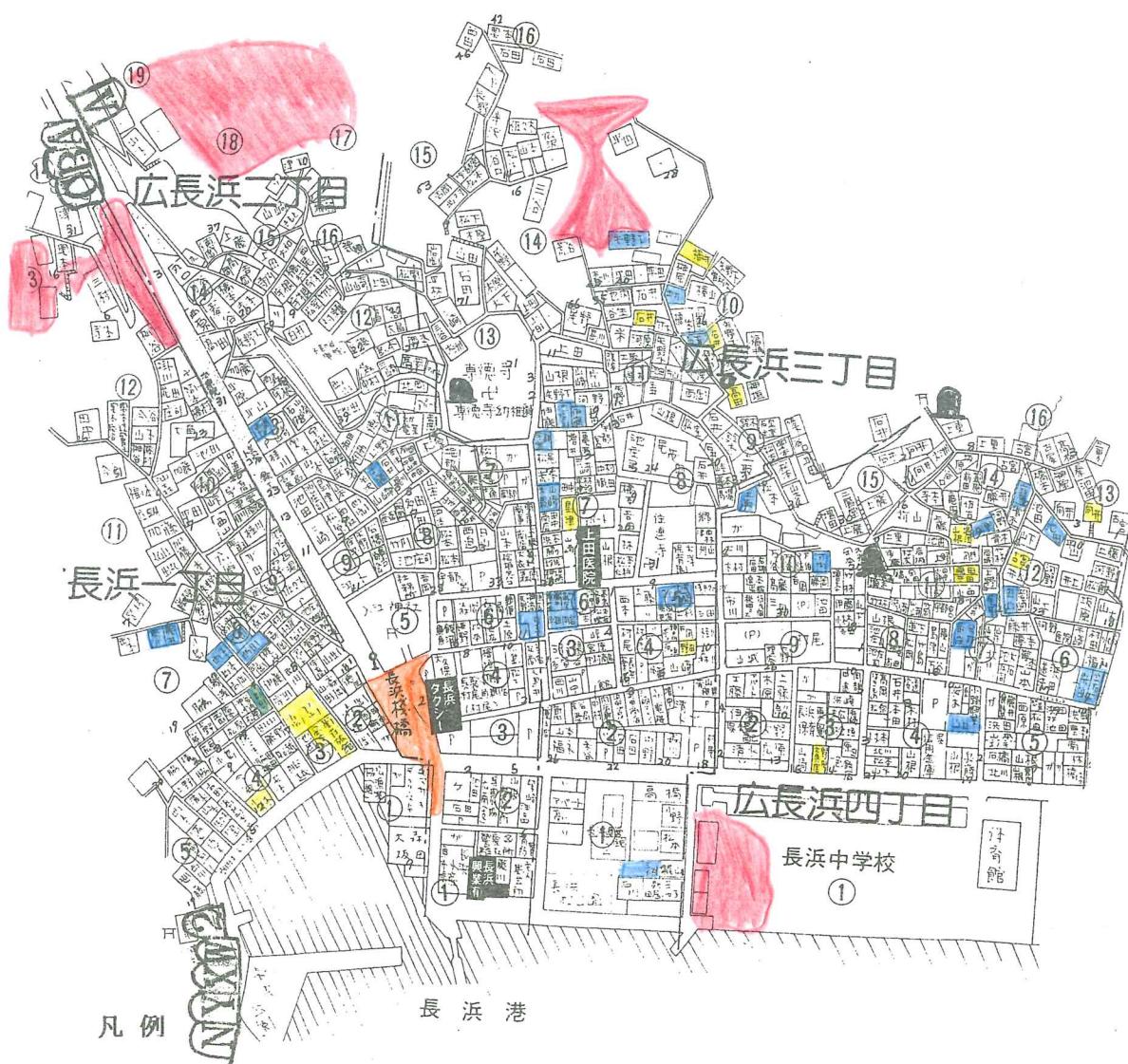
◆ B (津久茂) 地区



凡例

- 訪問して聞き書きできたところ
- 訪問して聞き書きできなかったところ
- 空襲で焼けたところ

◆ C (長浜 1~4 丁目) 地区



凡例

■ 訪問して書き書き
できたところ

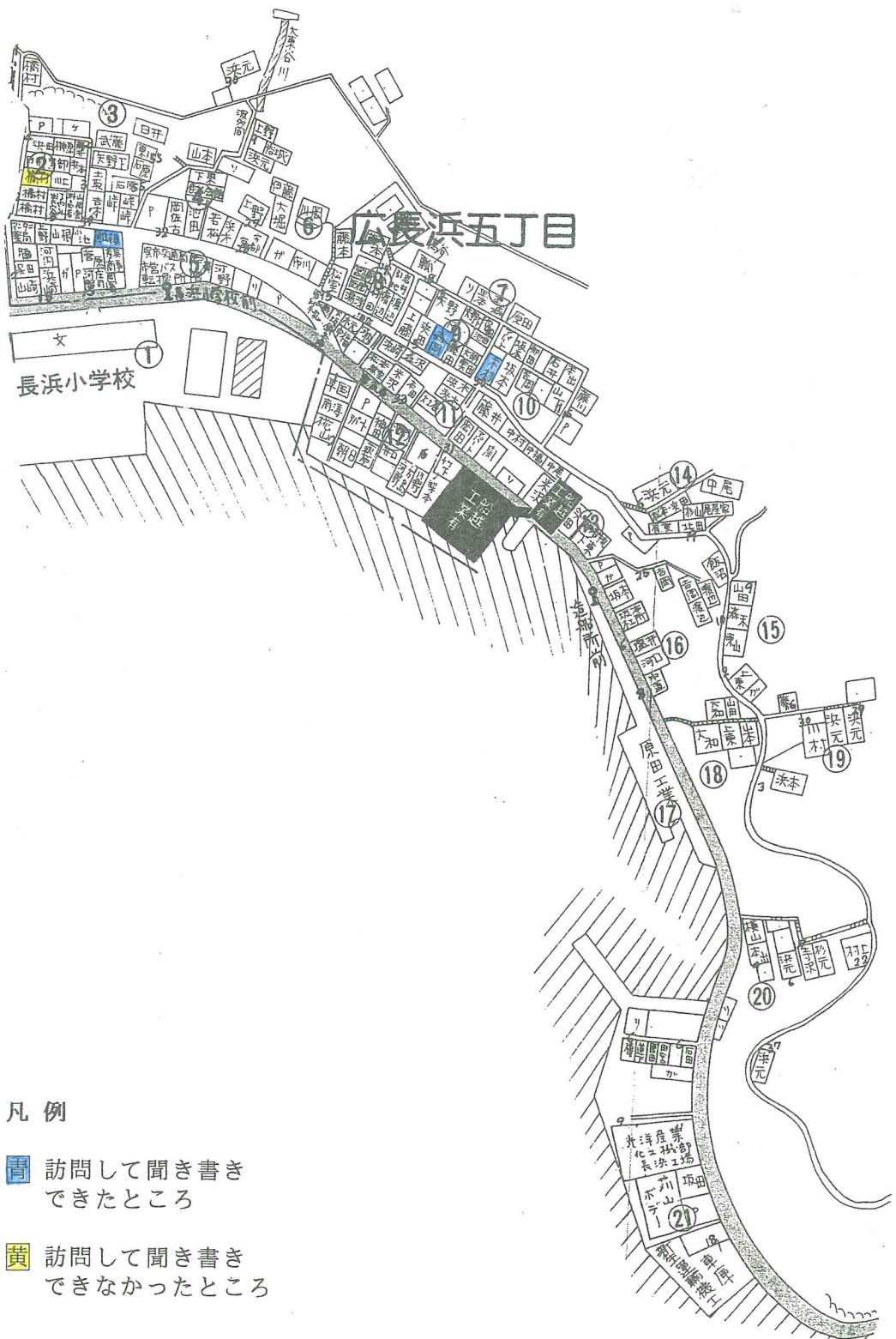
■ 訪問して書き書き
できなかったところ

■ 空襲で焼けたところ

A ~ C, V ~ Z
2
■

} 防空壕

◆ D (長浜5丁目) 地区

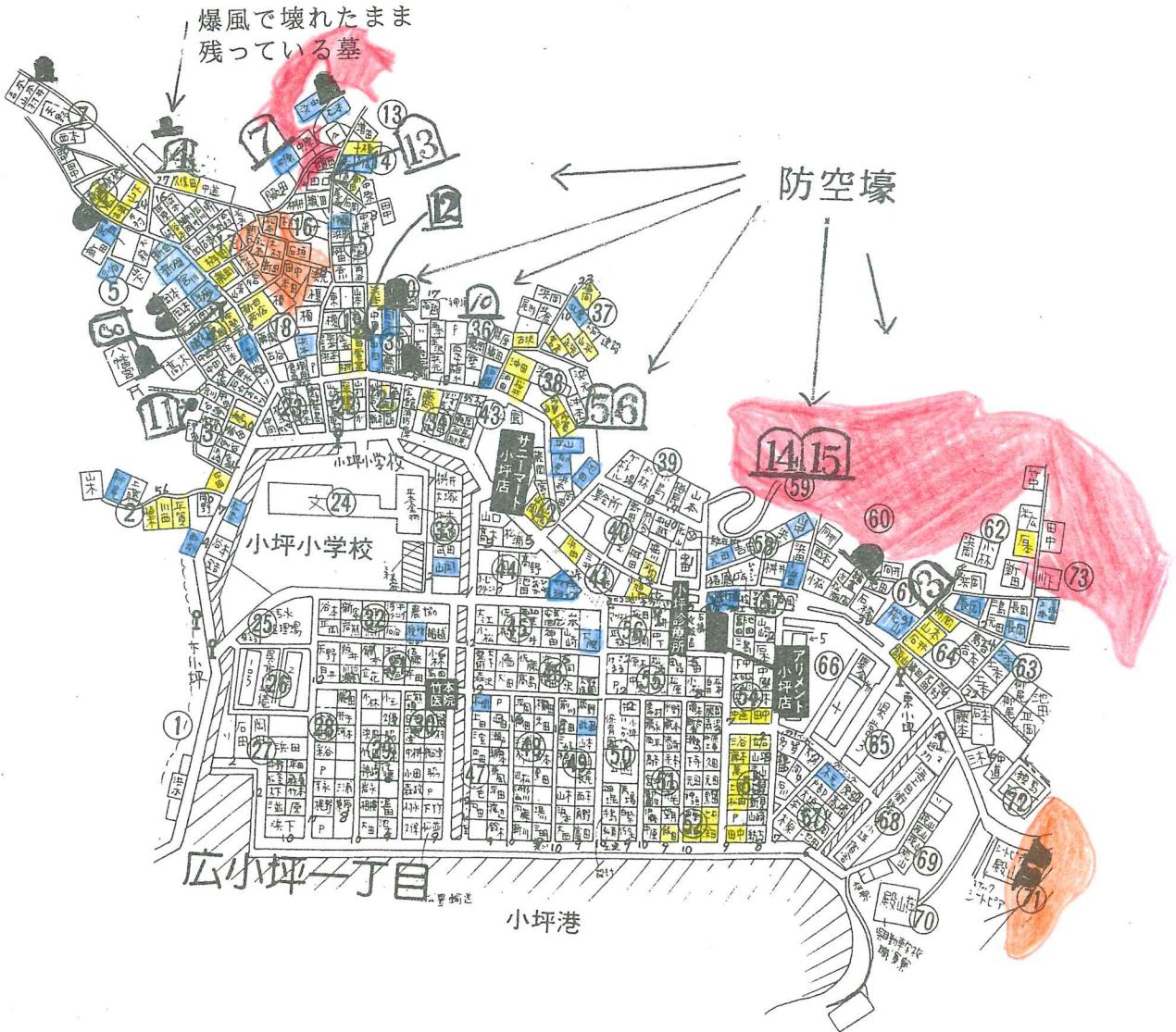


凡例

■ 訪問して聞き書き
できたところ

■ 訪問して聞き書き
できなかつたところ

◆ E (小坪1丁目) 地区…小学校より海側は戦後埋め立て地



凡例

青 訪問して書き書き
できたところ

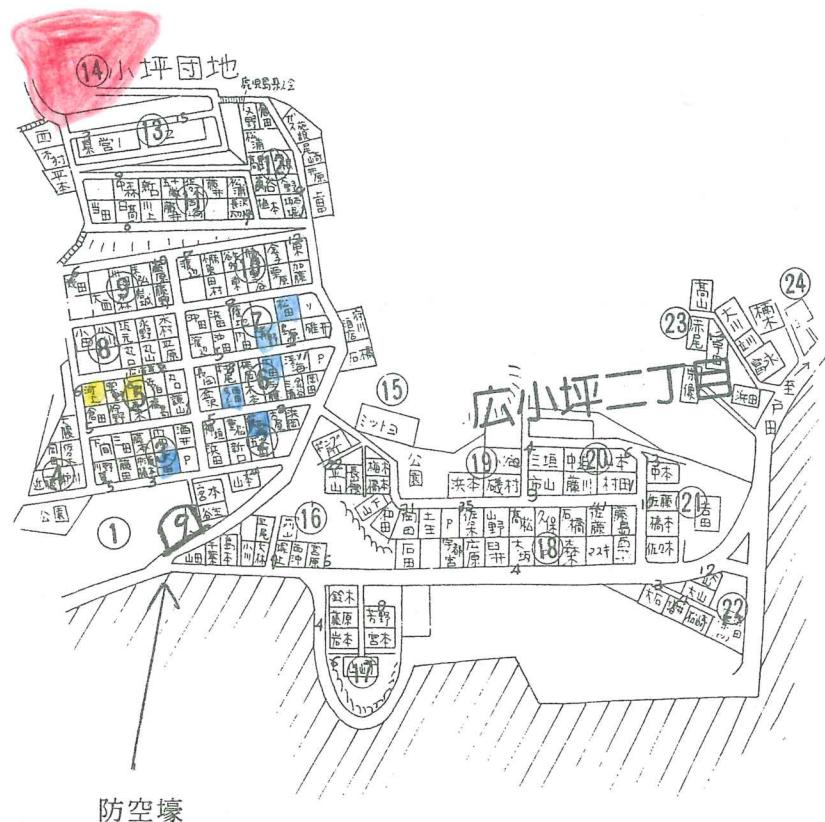
黄 訪問して書き書き
できなかつたところ

赤 空襲で焼けたところ

3~8, 10~15 防空壕

県営1	県営2	県営3	県営4	県営5	1号棟	2号棟	吳市小坪住宅	海上自衛隊東小坪宿舎
5 4 3 2 1								
6 5 4 3 2 1								
7 6 5 4 3 2 1								
8 7 6 5 4 3 2 1								
9 8 7 6 5 4 3 2 1								

◆ F (小坪2丁目) 地区…戦後の新興住宅団地



凡 例

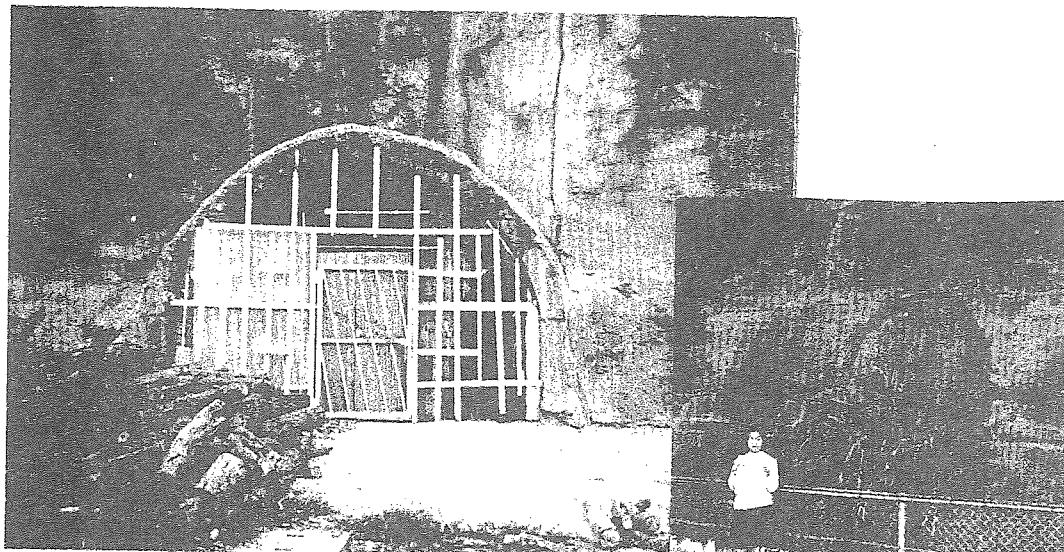
青 訪問して書き書き
できたところ

黄 訪問して書き書き
できなかったところ

赤 空襲で焼けたところ

4. 「聞き書き地図」にある防空壕等

◆道路沿いの山にある防空壕



B 地点



M 地点



W 地点



E 地点

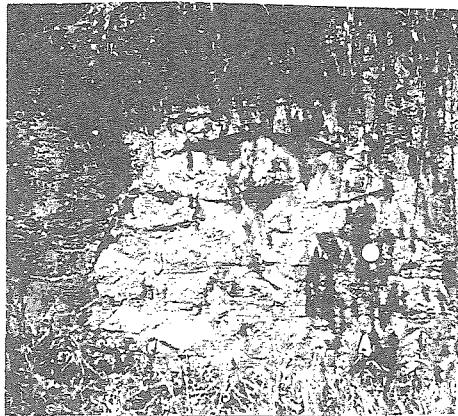
記号	説明	当時の様子	今の様子
A	長浜峠付近の道路西側にある	空襲の時この中にかくっていた	大きな石や草でふさがっている

記号	説明	当時の様子	今の様子
B	長浜峠付近の道路西側にある	空襲の時この中にかくっていた	大きな石や草でふさがっている
C	長浜峠付近の道路西側にある	空襲の時この中にかくっていた	車庫になっている
D	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	フェンスで入口がふさいである
E	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	フェンスでふさいである
F	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	半分コンクリートで半分フェンスでふさがれている
G	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	荒れ地になっている
H	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
I	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている
J	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている
K	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている

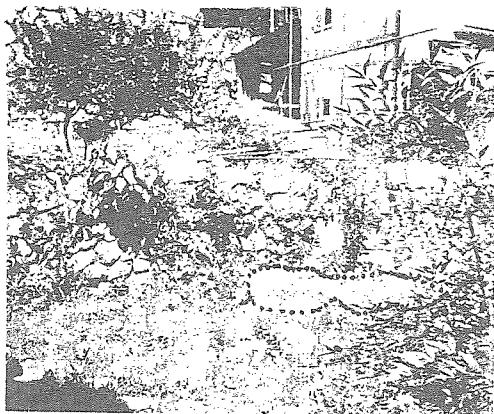
記号	説明	当時の様子	今の様子
L	新王子製紙前の道路の山側にある	第一変電所	コンクリートでふさがれている
M	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
N	新王子製紙前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
O	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
P	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
Q	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
R	中国工業研究所前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	コンクリートでふさがれている
S	中国工業研究所前の道路の山側にある	No 1 工場	コンクリートでふさがれている
T	中国工業研究所前の道路の山側にある	No 1 工場	コンクリートでふさがれている
U	黄播米軍基地前の道路の山側にある	空襲の時この中にかくっていた	物が置いてあって入れないようになっている

記号	説明	当時の様子	今の様子
V	長浜峠付近の道路東側にある	空襲の時この中にかくっていた	石が積んであって入れないようになっている
W	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	No 5 工場	鍵があつて入れないようになっている
X	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	No 5 工場	鍵があつて入れないようになっている
Y	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	No 5 工場	トタン板で入れないようになっている
Z	長浜三角浜公園前の道路の山側にある	No 5 工場	コンクリートでふさがれている

◆庭や家の近くにある防空壕



1 地点



6 地点

記号	説明	当時の様子	今の様子
1	津久茂公園のブランコの後ろにある	空襲の時この中に入ってかくれていた	大きな石でうめている
2	長浜の西脇神社の近くにある	空襲の時この中に入ってかくれていた	中にいろんな物が入っていて倉庫として使われている
3	長岡さんの家の庭にある	空襲の時、家族がこの中に入ってかくれていた	すっかりあとはなくなつたが、かすかにあとが残っていた
5	沖本さんの家の近くのがけにある	空襲の時この中に入ってかくれていた	コンクリートでうめられている
6	浜元さんの家の近くの畠にある	空襲の時この中に入ってかくれていた	土でうめられている

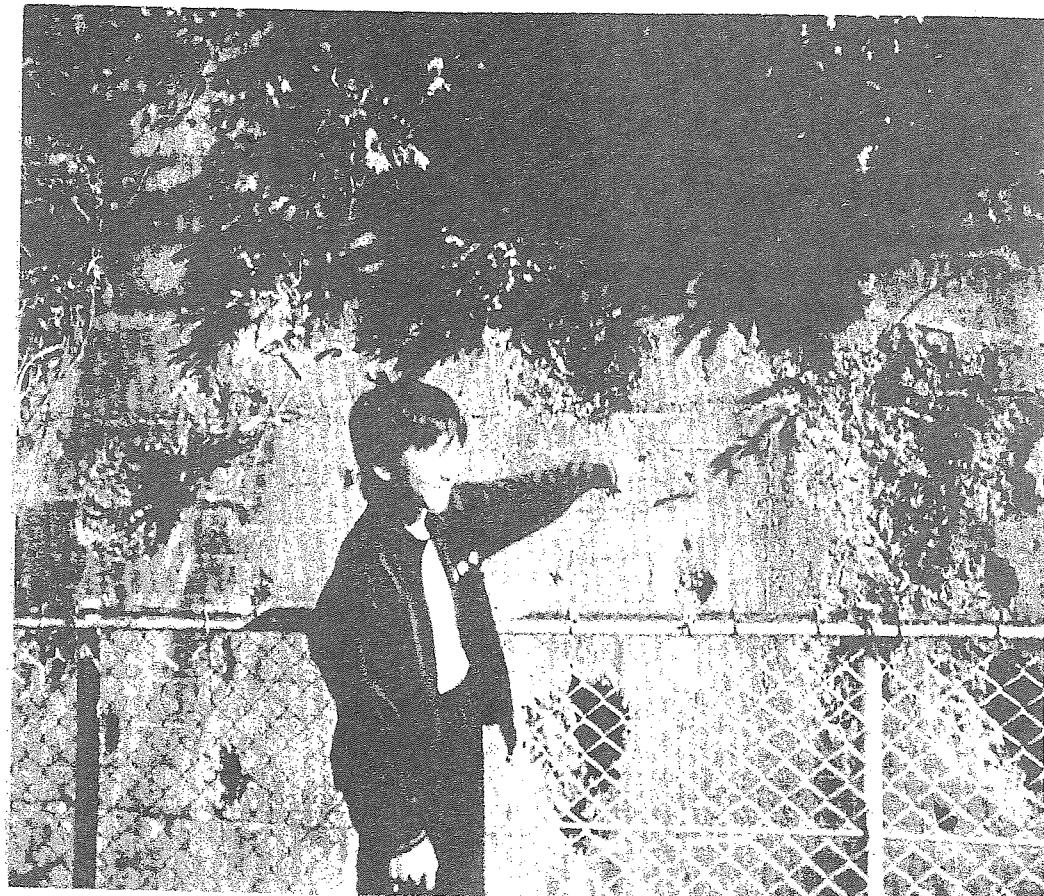
記号	説明	当時の様子	今の様子
7	中原さんの家のうしろにある	空襲の時この中に入つてかくれていた	もう土や石で完全にうめられている
8	岡本さんの家のうしろにある	空襲の時この中に入つてかくれていた	コンクリートでうめられている
9	山団地へ行く坂の手前にある	空襲の時この中に入つてかくれていた	畠になっている
10	藤原さんの家のあたりにある	空襲の時この中に入つてかくれていた	あとかたもなくなっている
11	八幡宮に行く通りにある	空襲の時この中に入つてかくれていた	コンクリートでうめられている
12	沖田さんの家の庭にある	空襲の時この中に入つてかくれていた	コンクリートでうめられている
13	田口さんの家の近くにある	空襲の時この中に入つてかくれていた	コンクリートでうめられている
14	山中さんの家の裏山にある	空襲の時この中に入つてかくれていた	あとかたもなくなっている
15	田口さんの家の近くにある	空襲の時この中に入つてかくれていた	石でうめられている

◆空襲で壊れた墓

記号	説明	当時の様子	今の様子
4	小坪の林にある	爆弾が落ちてきてお墓 がこわれた	お墓に爆弾が落ちてき たあとがある



◆B29の弾の跡



記号	説明	当時の様子	今の様子
	中国工業研究所前の道路沿いの山斜面にある	B29が空襲のときうった 弾の跡	20mにわたって何百と跡 がある

5. 概要の詳細

——文化祭案内テープから——

これから「受け継ごう50年目の平和を」というテーマのもとに、二年生全員で取り組んだ文化祭の展示についてご案内します。私達は、一学期に「ベトナムのダーちゃん」という映画を見ました。そして、「戦争について調べ、文化祭で発表しよう。」と話し合いました。その結果、「長浜・小坪で育った私達にしかできないことをしよう。」ということ

になったのです。それが長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」です。

「聞き書き」というのは、「家を訪問して、戦争中の生活についていろいろと教えてもらい、記録すること」です。

では、始めに、聞き書きの地図模型（P6～P12の地図）を紹介しましょう。

青と黄色のしるしは、私達が聞き書きをして回った家です。青が、聞き書きできたところです。黄色が、訪問しても聞き書きできなかつたところです。私達は、2～3人ずつ組んで長浜・小坪の家を回りました。何組かが重複して訪問したり、一軒で何人もの方に教えていただいたりしたところもありますが、延べ204件訪問し、131件聞き書きをしました。黄色の旗は、防空壕があつた所を表します。また、赤い縞をはりつけているのは、空襲で焼けた場所です。B29、は紙粘土で120機作りました。広・長浜・小坪が最も大きな空襲の被害にあつたのは、昭和20年5月5日です。この時襲ってきたB29が120～130機でした。この時の空襲で被害にあつた海軍工廠の工場を、ピンクで示しています。

では、当時の人々の生活の様子を紹介しましょう。まず、衣・食・住のうち、



テーマのアーチの下の文化祭実行委員会

衣からです。一般市民は、おもにもんぺ・防空頭巾を身につけて生活していました。服には必ず名札をつけており、名札には名前・住所・血液型を記入していました。万が一けがをした時のために、備えてあったのです。また、兵隊は、軍服や国防服を着ていました。

次に、食べ物を紹介します。人々が一番多く食べていたのが、麦です。後、いも、大豆、大豆かすと続いています。食糧が少ないため、米以外のものを混ぜたり水を入れたりして、お腹をふくらましていました。弁当は、梅干し一つがおかずの日の丸弁当でした。兵隊は、戦いの時には、とかけやカエル等の動物を捕って食べたり、現地の人の米や家畜を取り上げたりしていました。

次に、住居を紹介します。壁や家の窓は、墨で黒く塗ってありました。それはアメリカ軍の飛行機B29から目立たないようにするためにです。そして、ほとんどの人が家の庭に防空壕を掘り、いざというときに必要な物をその中に入れていました。それでも、空襲がひどくなると、小さな子ども達は田舎にあるお寺等に疎開していました。親戚のある人は縁故疎開。ない人は集団疎開です。特に、集団疎開は、今の私達には想像できない位つらいものでした。このように、食糧不足と並んで人々を苦しめたのが、空襲でした。

それでは、なぜ、広や長浜・小坪は空襲を受けたのでしょうか。それは、年表を見るとよく分かります。呉市は明治22年に鎮守府が置かれた後、軍の都市として飛躍的に大きくなりました。それについて、今の米軍基地のところに、兵器を造る軍の工場が作られたのです。そして、工場で働くため、全国から人々が集められました。これが、空襲を受けた大きな原因です。

では、B29に対して、軍はどのように応戦していたのでしょうか。当時の空襲体制の方針は、「市民を守るのは二の次」と決まっていました。「B29を攻撃するとサーチライトで軍事施設が見つかる。」と思い、爆撃されるにまかせていたのです。後に、B29がレーダーで軍事施設の場所を知っているという情報が入ると、やつと積極的に撃ち落とすように命令します。当時の新聞発表で計算しても、日本軍の弾は、約200発に1発しか当たっていません。ある人は、「逃げている時、軍の撃った弾の破片が目の前に落ちて、死ぬところだった。」と話しています。しかし、軍の発表では、空襲の被害は少ないと強調していました。そして、「戦う気持ちさえあれば焼夷弾はこわくない。」と報道したりします。

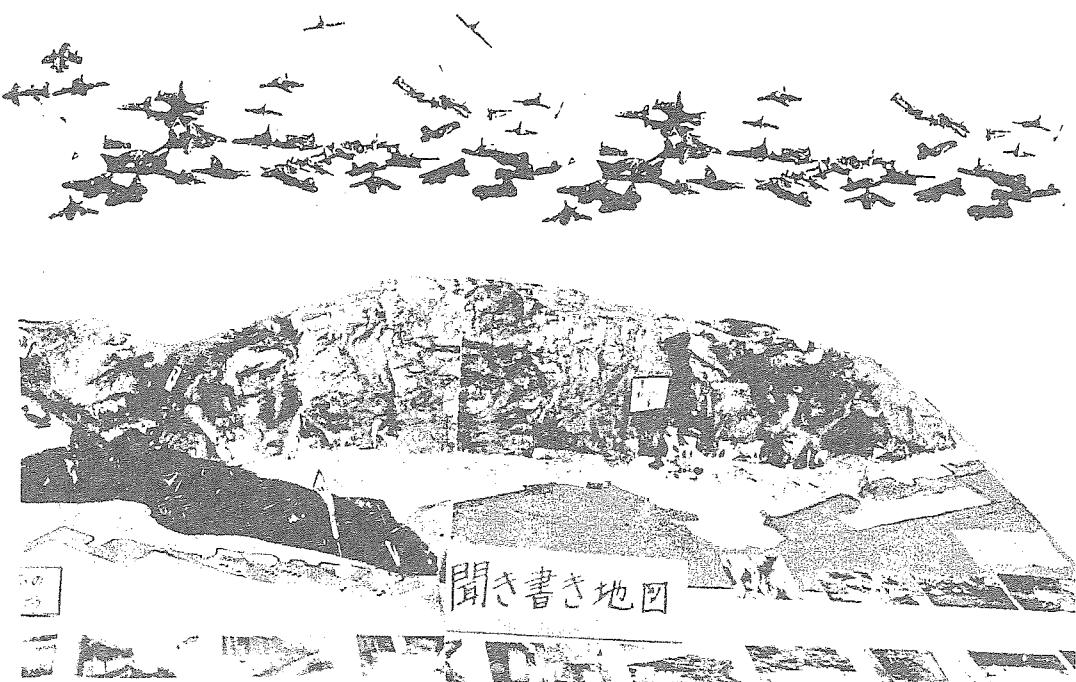
以上のように、人々の生活は、すべて戦争のためにささげられていました。たとえば供出です。溶かして兵器にするため、鉄でできた道具を軍にただで出すことです。子ども達も、こづかいを出し合って軍艦や飛行機代にさせられます。こ

れが「小供かちどき部隊」です。当時の雰囲気は、数々のスローガンでよくわかります。

私達は、今回の書き書きを通して、私達が思っていたのとは全く違う戦争を知りました。戦争を経験された方達の苦しみ、悲しみ、絶望等、何ともいえない思いを知ることができました。私達の住む長浜・小坪で、たくさんの人達がこんな気持ちで生きておられたことを知りました。それは、私達には驚きでもあり、大きなショックでした。しかし、「戦争について知る」という私達の目的は、少し叶いました。これからも知ろうとする姿勢が大切だ、と思っています。

どうぞみなさん、私達が集めた資料をごゆっくりとご覧ください。

BGM「想像」（戦争と平和をテーマにした曲）



文化祭で展示された地図模型とB29模型

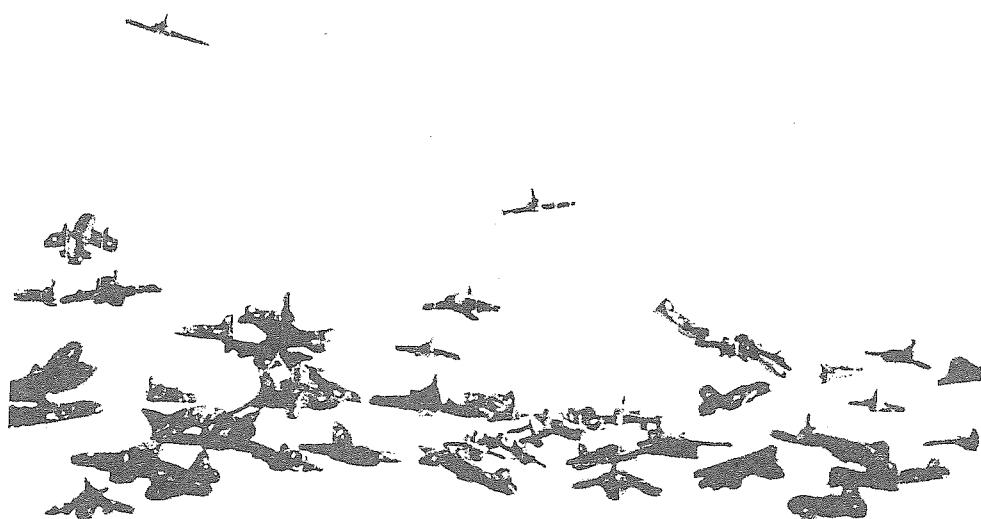
● 空襲

1. 広・長浜・小坪最大の空襲

- ・昭和20(1945)年5月5日 10時30分前後～11時30分前後、アメリカ第20航空軍B29が120～130機来襲した
- ・「アメリカ戦略爆撃調査団報告」によると、爆弾400発、計594トンが投下された。

2. 5月5日の被害の程度

- ・「呉市戦災復興誌」によると、死者97人・負傷者35人・行方不明4人となっている。また、建物の全焼・全壊は100棟、半焼・半壊は150棟以上と大きな被害を出した。さらに、被災者は一千人以上にのぼった。



来襲するB29（イメージ）

3. 空襲のときの様子・気持ち

証言 1

- ・現在の小・中学校の敷地は、広々とした埋め立て地だった。戦争中は、広海軍工廠第11空廠の資材倉庫として使っていた。しかし、アメリカ軍の焼夷弾投下によって燃え上がり、一部が消失した。

証言 2

- ・広地区が初めて空襲を受けたのは、昭和20(1945)年3月19日だった。アメリカの航空母艦からの艦載機によるものだった。当時私は設計課に在籍し、本館と呼ばれる三階建のコンクリートの建物の三階に居た。不意をつかれたためか、空襲警報のサイレンが遅れたようだ。逃げるために皆が整列している時、大阪出身の同僚が「あっ、グラマンや」と叫んで窓を指差すので窓の外を見ると、グラマン戦闘機が急降下しながら機銃掃射しているところだった。幸いこのときの空襲の被害は軽かったらしく、私が見たのは広の西大川の橋の近くの砂地に直径3mばかりの穴が二つあつただけだった。

証言 3

- ・5月5日の空襲の時間は昼頃であるので、地域におったのは亡母のみだった。母は、防空壕に避難したという。私が動員先の呉海軍工廠から帰って見ると、近所はほとんど類焼や爆弾や爆風で家がなくなっていた。

証言 4

- ・敵機が襲来したときは生きた心地がしなかった。朝から昼頃まで防空壕に入っていて、恐ろしいと思った。

証言 5

- ・空襲の時、防空壕に十人位入っていた。中では目と耳を押さえてかごんでいた。「ずしん、ずしん」と爆弾が落ちる音がした。空襲がすんで出てみたら、辺りは全部焼け野原で、まだ一部燃えていた。

証言 6

- ・バリバリと音がして弾が落ちると、火の手が夜空に大きく上がる所以、とてもこわくて見ることもできなかった。

証言 7

- ・爆弾がたくさん落ちてきて、家が次々に燃えた。広の町も山も海も火でまつ赤だった。

証言 8

・昭和20(1945)年5月5日。私はこの日を忘れる事ができない。130機のB-29爆撃機が第11空廠の地下建物を壊滅させた日だ。午前10時か10時半頃だったか。空襲警報が鳴ったので、皆それぞれに非常持出しの袋入りの図面等を持ち、隊列を組んで、表門から道路を隔てた防空壕へ逃げ込んだ。表門は、現在の中国工業研究所の表門の辺りか、あるいはもう少し南だったかも知れない。爆撃は間もなく始まった。初めて体験する1トン爆弾の威力は、さすがに腹にこたえた。特に、我々の入った防空壕のある山に直接落ちた時など、女子工員の中には悲鳴を上げる人もいた。

爆撃が終わってしばらくして落ちついた頃、外へ出て用を済ませた同僚が帰って来た。そして「やられちよる。庁舎の建物がすっかり無くなっちゃる。」と言ったので「えーッ。」と仰天してしまった。しかし、間もなく警報解除になって外に出た時、自分自身が現実に目にすることになった。第11空廠のシンボルであり、司令部として我々に君臨した庁舎は、完全に焼け落ちていた。それから何時間かの後、「近くの人は様子を見に帰って来てもよろしい。」と言われたので、長浜へ帰った。その途中、大通りのあちこちに馬が倒れており、特に津久茂では三匹がかたまって死んでおり、可哀相だった。家は別に異状なかったが、妻が「本家へ不発弾が落ちて大変よ。近所も立ち退き命令が出て大騒ぎよ。」と言うので、あわてて駆けつけた。現場は、階下の座敷の床下だった。不発弾は地面へもぐり込んでいて、全く見えない。片手で上の土を掘ってみたが、何も現れないで直ぐあきらめた。「やっぱり本職にまかせよう。その間、用心のため家へ行っておりんさい。」と母に言いおいて、職場に帰った。後で聞いたところでは、不発弾の正体は、何と一抱えもある大きな石だった。まるで漫画を見るような話である。しかし、先端がとがってもいない石が、屋根を破り、天井を破り、二階座敷の畳や座板を破り、更に下の座敷の天井、畳、座板を破り、地面へあれだけめり込むなんて、高空からの落体の加速度ってすごいと思う。

証言 9

・みんな死ぬ気持ちでした。いつ爆弾が落ちてくるかわからないのでドキドキした。

証言 1 0

・昭和20(1945)年7月2日夜、旧呉市内全般が焼夷弾攻撃を受け焼失した。たまたまその日、叔父(母の弟)の娘が呉の親戚へ用事で行っていて、翌日の午後になっても帰らないので、叔父が心配して一人で探しに行った。それを私は後で知り、ボロ自転車で後を追った。「呉でうまく叔父と会えるかしらん。」と心配していたが、呉市内は一面の焼野原なのですぐに会えた。「まず、親戚の焼跡をよく探してみよう。」と二人で探している時、突然叔父が「わっ。」と言った。それを見ると、黒く炭化した女の人の死骸だった。叔父は「ハ一ちゃんのおふくろじや。」と言っていた。ハ一ちゃんとは、目がほとんど見えず、琴の先生をして生活している人だった。その死骸は、繻子(シユス)の帯をしていたが、絹物のせいか模様がよく見え、一部中の芯の網の目が鮮やかに見えたのが印象的だった。後でわかった事だが、この人は空襲が始まっても逃げようとはせず、「私は年寄りだから逃げずにこの家で死ぬ。目の見えないハ一ちゃんを頼む。」と叔父の娘にハ一ちゃんを預けると、手を合わせて「南無阿弥陀仏」と念佛をとなえて二人を送り出したという。

証言 1 1

・工廠に行く途中、津久茂から工廠まで米軍機(グラマン)に追っかけられたことは今でもよく思い出します。年をとつて忘れたといえばすむ事ですが、思い出すのがいやな気持ちです。楽しいはずの青春が地獄でした。

証言 1 2

・一瞬にして家が無くなり、ただぼうぜんとしていた。それから50年たつた今でも「焼けていなかつたら……」と悔やまれてならない。記念に門柱の頭がある。

証言 1 3

・空襲におびえて、何をする気もなく、家族が同一行動をとるのみだった。早く戦争が終わればいい、もうダメと思った。

証言 1 4

・終戦前、妊娠8ヶ月ぐらいの体になった。いつ生まれるか分からないので、父親が、山の畑に防空壕を夜掘ってくれ、安心してお産ができる様してくれた。「近くには山水も出ているし、ご飯も炊ける。」と安心した。でも終戦になり、必要はなくなりましたが、10月7日に無事出産しました。

4. 呉軍港防空体制

◆市民を守るのは二の次

- 「B29を攻撃すると、サーチライトで軍事施設が見つかるので、砲台を使うな。」と軍は始めのうち命令しました。ところが、後になって、B29がレーダーで軍事施設の場所を知っているという情報が入ると、積極的に抗戦するようやっと命令しました。

◆事実を知らされなかつた国民

- 軍は空襲被害の実際を隠し、新聞やラジオを通じて、空襲の被害は少ないことを強調しました。そして、「戦う気持ちさえあれば、焼夷弾はこわくない」と報道させています。

◆あまり当たらなかつた弾

- 当時の新聞発表で計算しても、日本軍の弾は約200発に1発しか当たっていない。ある人は、「逃げている時、B29をねらった頭くらいの大きな弾の破片が目の前に落ちてもう少しで死ぬところだった。」と話している。砲台の近くにある民家に被害があることもしばしばあった。

被害が少ないと強調する新聞記事

敵米空軍は八日、大陸をおける
我が艦隊を襲つて十数機をもつて
再び九度攻を企てた。午前二時
じる艦隊を衝いて佐世保附近より
ひ北九州上空に侵入したが、我が
制空部隊は頗るこゝに敵機、地上火
薬だ、敵射を浴びせたため敵機
は損害と爆弾の大部を海中や
したがほいられを消し止んだ

敵機
九州西部北部に侵入

宣傳にケリラ空襲

砲兵に被害なし

制空部隊、直に撃退

大本營義理和十九年七月八日六時) 本七月八日二時頃敵機十數機大陸
基地より九州西部及北部地方に侵入せるも我制空部隊は直ちに敵機
之を撃退せり、我方殆んど被害なし

田園を没して食糧として運送した
去月十六日同じく敵機の空襲を体
験した九州地方のわが親衛隊隊
らひて民防警備本部の日赤い旗
して運搬をはじめて運んでいた
ただ國三三軒が爆弾を落つて田火
また四百四十戸の住居を損つたが、
そのうち被害は極めて少く、八時
限隊所を爆破した」とわめいた。
これによつてみゆじの日の被災も
まだ四百四十戸の住居を損つたが、
そのうち被災は極めて少く、八時

軍の情報を信頼

敵機の状況判断

デマに浮足たつ

敵機來襲の情報を入ったばかりか

飛ぶ鳴りが不謹慎な轟轟おれ

て間違ひだ、されば女士
は間違ひだ、されば女士

が飛車を走り上り下り

が飛車を走り上り下り

わわれは警報が飛車を走り
わわれは警報が飛車を走り

飛車を走り上り下り

飛車を走り上り下り

わわれは警報が飛車を走り
わわれは警報が飛車を走り

飛車を走り上り下り

飛車を走り上り下り

わわれは警報が飛車を走り
わわれは警報が飛車を走り

飛車を走り上り下り

飛車を走り上り下り

わわれは警報が飛車を走り
わわれは警報が飛車を走り

飛車を走り上り下り

飛車を走り上り下り

わわれは警報が飛車を走り
わわれは警報が飛車を走り

焼夷弾は恐くないと宣伝する新聞記事①

水と炎で灭火

火焰の海に目を歎されるな

水槽は数ヶ所に分散

と云ふ事あらず、瓶が小さきだ

の中放り出し水をかけて消した

しゆめの電気炉が点出し張ら

めしだがやの上から下を水を

ましに浮かれて飛ばすよ

ましに浮かれて飛ばすよ

私が時々新規をじるる水を

新規新規をじるる水を

で新規新規をじるる水を

新規新規をじるる水を

十ほど、音づいたとひきだる

音づいたとひきだる

で音づいたとひきだる

音づいたとひきだる

音づいたとひきだる

音づいたとひきだる

音づいたとひきだる

音づいたとひきだる

消防署が火を放つ事

の放水は、少しうまく、お水

火を放つ事

の放水は、少しうまく、お水

消防署が火を放つ事

の放水は、少しうまく、お水

消防署が火を放つ事

の放水は、少しうまく、お水

消防署が火を放つ事

の放水は、少しうまく、お水

つ勝に弾夷燒脂油

陣空防民州九たしか活訓戰

（左）大日本帝國の軍事機関が主導する「軍事評論」誌に掲載された、軍隊による焼夷弾の実験結果を示す記事。文章では、焼夷弾が火薬弾よりも威力があると主張している。

（右）同様の実験結果を示す記事。軍隊によると、焼夷弾は水槽を穿孔する力が強いため、水槽を破壊する力があるとされる。

蒲團で抑へる

不具の身で敢闘十分間

（左）大日本帝國の軍事機関が主導する「軍事評論」誌に掲載された、軍隊による焼夷弾の実験結果を示す記事。文章では、焼夷弾が火薬弾よりも威力があると主張している。

（右）同様の実験結果を示す記事。軍隊によると、焼夷弾は水槽を穿孔する力が強いため、水槽を破壊する力があるとされる。

井水の救援

水槽の他に確保

（左）大日本帝國の軍事機関が主導する「軍事評論」誌に掲載された、軍隊による焼夷弾の実験結果を示す記事。文章では、焼夷弾が火薬弾よりも威力があると主張している。

（右）同様の実験結果を示す記事。軍隊によると、焼夷弾は水槽を穿孔する力が強いため、水槽を破壊する力があるとされる。

（左）大日本帝國の軍事機関が主導する「軍事評論」誌に掲載された、軍隊による焼夷弾の実験結果を示す記事。文章では、焼夷弾が火薬弾よりも威力があると主張している。

（右）同様の実験結果を示す記事。軍隊によると、焼夷弾は水槽を穿孔する力が強いため、水槽を破壊する力があるとされる。

（左）大日本帝國の軍事機関が主導する「軍事評論」誌に掲載された、軍隊による焼夷弾の実験結果を示す記事。文章では、焼夷弾が火薬弾よりも威力があると主張している。

（右）同様の実験結果を示す記事。軍隊によると、焼夷弾は水槽を穿孔する力が強いため、水槽を破壊する力があるとされる。

（左）大日本帝國の軍事機関が主導する「軍事評論」誌に掲載された、軍隊による焼夷弾の実験結果を示す記事。文章では、焼夷弾が火薬弾よりも威力があると主張している。

（右）同様の実験結果を示す記事。軍隊によると、焼夷弾は水槽を穿孔する力が強いため、水槽を破壊する力があるとされる。

2. 生活の仕方

◆ 1日の生活モデル

兵隊	疎開していた人	学校へ行っていた人	一般の人
5 ↓	起床	↓	起床
6 起床	仕事 ・畑仕事 ・たきものを集めに行く	起床	仕事
7 体操		朝食	
8 朝食		学校	
9 訓練			
10	学校		
11		↓	
12 昼食	昼食	昼食	昼食
13 訓練	学校	学校	仕事
14			
15			
16		遊び・手伝い	
17 夕食	ミシン仕事 等		
18 掃除 他		仕事 (工場で)	
19			
20 寝る	用事		
21		夕食	寝る
22	夕食		
23	寝る	寝る	

◆ 1日の生活の実際

兵隊になっていた人の証言

- ・作戦中の生活は決まっていない。
- ・兵隊さんが死んだら、衛生兵がうでを切り、それを飯ごうに入れて、死んだ人の一番仲の良かった人に持たせ、戦後に焼いた。(忙しい時は指だけ。)

- ・シベリア…………カラマツの木を切り倒して、暖房のため油を探った。
- ・中　　国…………中国人ゲリラを防ぐために陣地を作ったり、食糧の買い出しをした。
- ・中　　国…………畑を耕して食糧（米、タピオカ、タロイも、サツマイも）を作（南方）　　った。

疎開していた人の証言

- ・朝5時頃にはもう起きて身支度をすませ、たきものを集めに行く。6時頃から畑仕事を行う。午後も畑仕事を手伝ったり、縫い物をしたりする。夜は遅くまでミシン仕事をする。時には、朝まで仕事を続けることも度々あった。
- ・集団疎開は1組50人（小学校4年生以上）でした。先生は、全員女だった。1日中集団生活だから、いじめがひどかった。

学校へ行っていた人の証言

- ・学校で勉強をしようと思っても、警戒警報のサイレンが鳴ると、すぐ先生に引率されて地区ごとに集団で帰宅していたので、勉強していた感じはない。
- ・運動場に防空壕を掘ったり、畑を耕して食物を作ったり、竹ヤリ訓練ばかりした。だから勉強はほとんどなく、あっても戦争や天皇のことばかりだった。教科書は4人に1冊位しかなかった。
- ・学校に天皇の写真があり、みんな門に入る時おじぎをして入り、帰る時もおじぎをして帰っていた。
- ・中学2年では、学徒動員で工場等に行き、武器等を作った。
- ・昭和19(1944)年6月から、学徒動員ということで学校へ行かず、軍需工業（呉海軍工廠）へ行って海軍の仕事をしていた。5月までは通常の学業があった。

一般の人の証言

- ・朝起きたらすぐ仕事をした。その間をぬって、食糧の確保や竹ヤリ訓練を時々した。
- ・工廠での日常の勤務は、午前7時から午後4時45分（定時間）までだったと思う。昭和7(1932)年頃より2時間残業が始まり、仕事の終わりは6時45分にまでなった。昼夜の2交替制になったのは、昭和14(1959)年頃だったか？仕事の始業時には朝礼が行われ、「海行かば」等の軍歌を合唱させられた。

- ・昭和16(1941)年に戦争に突入した後は、通勤に「ゲートル」という陸軍用の巻脚絆を足にまくことを義務づけられた。同時に、物資不足のため下駄履きも許可された。
- ・当時、父が長浜沼田地区の一画の隣組長をしている時に、国債の割り当てがあった。そこで、各家へ一枚ずつ一応お願ひした。ところが、夜になって、ある家の息子が酒に酔ってやって来て「ちょっと伺いますが、国債というものは、食う物を食わなくても買わなければいけないものなのでしょうか?」といった。父は「そんな事はありませんよ。お国の為に無駄使いをやめて一枚でも多く買ってくださいということです。あなたはどうやら酔っておられるようだが、それでも食う物が無いようでしたら遠慮なく返してください」と言った。その人は、「そうします。」と言って憤然と帰っていった。しかしついに国債は返しに来なかった。
- ・ジフテリアがはやった。
- ・何時でも逃げられるように、名札、血液型を胸につけ2~3種類の薬を入れた救急袋をいつも肩に下げていた。夜寝るときは、いつ空襲があってもいいように服を着たままで寝た。いつも枕元に救急袋と靴と防空ずきんをおいて寝ていた。(リュックも)

3. つらかったこと

兵隊になっていた人

つらかったことベスト3

- 1 位 厳しい軍隊生活 (規律、上下関係、体罰)
- 2 位 戦友の死
- 3 位 訓練

証言

- ・自由が全くなく、がんじがらめの24時間だった。
- ・訓練が激しいために、短剣で切腹して死んだ軍人もいた。
- ・毎晩指導員になぐられ、顔等から出た血で、廊下はいつも真赤だった。そして、それを消すために、毎日砂すりをして廊下をそうじさせられていた。

- ・軍隊では、何をするにしても個人や団体の競い合いだった。負けたら食事を抜きにさせられたり、顔やお尻をなぐられたり、体罰を受けた。
- ・戦争で死んだ戦友の骨を3体くらい持って帰って、その人の家族にわたすのがつらかった。
- ・ハワイ攻撃に向かうために北海を航行している途中、波が大きいために軍艦が木の葉のようになり、船酔いした時、3日間食事が取れなかった。
- ・全てがつらく、とにかく早く我が家に戻りたかった。
- ・ラバウル航空隊に勤務している時、マラリヤが大流行して、部隊の1/4がかからってしまった。マラリアの予防法として、暑いかやの中でも長袖の服（エンカン服）を着てずっと寝た。このように注意していたのに「テング熱」病になり、熱が40~41℃も1週間位出て休んだ。「テング熱」病の薬は「キニー」であった。1回に食前1粒を服用するところ、早く治したいため、1回に3粒を3日のんだら熱は下がった。しかし、そのために今度は黄疸になってしまった。静養していたら、やっと1週間位で治った。
- ・台南航空隊にて、沖縄作戦の準備中に敵B29爆撃機の攻撃を受け、頭部と右股間命部を負傷し、九死に一生を得た。
- ・二度と戦争はしたくないものです。帰らぬ戦友の事を思うと今でも胸が痛んでなりません。

疎開していた人

つらかったことベスト3

- 1 位 食糧がない
- 2 位 物資不足（薬、鉛筆、その他）
- 3 位 親と離れていること

証言

- ・ノミ、シラミが異常発生した。見つけて手で取る位ではどうにもならないので、着ている物を全部脱いで、ぐらぐら沸とうしている湯に入れて煮た。その時はいなくなるが、どういうわけか又すぐ発生して何度もいつも身体中がかゆくてかゆくてたまらなかつた。かゆさのために眠れないこともあつた。

- ・食べ物も少なくて、両親と離れているので、ホームシックになった。特に夜などは心細くて、家が恋しくなった。我慢できず、黙ってぬけて帰る者もいた。

学校へ行っていた人

つらかったことベスト3

- 1位 食糧がない
- 2位 空襲の時の避難
- 3位 勉強ができない

証言

- ・空襲のため、家財道具だけでなく住む家さえも無くなつた。その日から、寝る所や着る物や食べる物等全てに困り、どうしてこんな目にあうのかと子供心に情けなかった。
- ・空襲警報が鳴ると、給食のパンをもらって帰つた。帰る途中に艦載機で空襲され、撃ち殺される人もいた。次の日学校へ行ってみると、昨日まで遊んだ友達が死んでしまつてきていなかつたことがわかり、何ともいえなかつた。

一般の人

つらかったことベスト3

- 1位 生活の全て
- 2位 金不足
- 3位 我が子を満たしてやれない

証言

- ・徴兵制のため兵隊に行った夫の生死を、毎日心配しながら暮らした。また、働き手がおらず生活が苦しかつた。
- ・国の体制が全て戦争に向かっているので、仕事が少なく、いつまでその仕事ができるか、安心できない。仕事がなくなつたら子供をどうやって養おうかと考えてつらかった。
- ・戦争中の人々は、つらいことが当たり前だと思っていた。
- ・戦時中ジフテリアがはやり、女の子二人（5才・4才）を亡くしてしまつた。終戦後、中国から引き揚げる時、男の子を一人亡くした。子どもを亡くすのが一番つらい。

4. 楽しかったこと

兵隊になっていた人

楽しかったことベスト3

- 1 位 家族、友人達や現地の人達との心の交流
- 2 位 楽しいことは何もない
- 3 位 自由時間

証言

- ・他がつらいので物を食べることだけが楽しみだった。
- ・ハワイ、カイロ攻撃が終了した時、「生き延びることができた。」とたまらなくうれしかった。
- ・日曜日等に、タバコや食べ物を持って親が面会に来てくれると、次はいつ生きて会えるかわからないだけに本当にうれしかった。
- ・外地に何年もいたので、日本からの慰問袋をもらうと、故郷がなつかしく、うれしかった。

疎開していた人



集団疎開写真

楽しかったことベスト3

- 1 位 家族や友人達との稲刈り等
- 2 位 家族との思いやり
- 3 位 わざかな品物を持って親が面会に来てくれるこ

学校へ行っていた人

楽しかったことベスト3

- 1 位 楽しいことは何もない
- 2 位 友人達との思いやり
- 3 位 修学旅行の思い出

証 言

- ・シンガポールが陥落した時、提灯行列があった。にぎやかで、この調子ならすぐに日本が勝てそうに思えてうれしかった。
- ・たまにしかない授業があると、少しでも吸収したいとはりきり、学ぶのが楽しかった。
- ・勉強が好きでなかったので、しなくてもよかつたことが何だか得をしたような気がしていた。
- ・勝てると思っていたので、戦争が楽しかった。

一般人

楽しかったことベスト3

- 1 位 家族や友人達との思いやり
- 2 位 物を食べること
- 3 位 ボーナス、自作の品物の完成

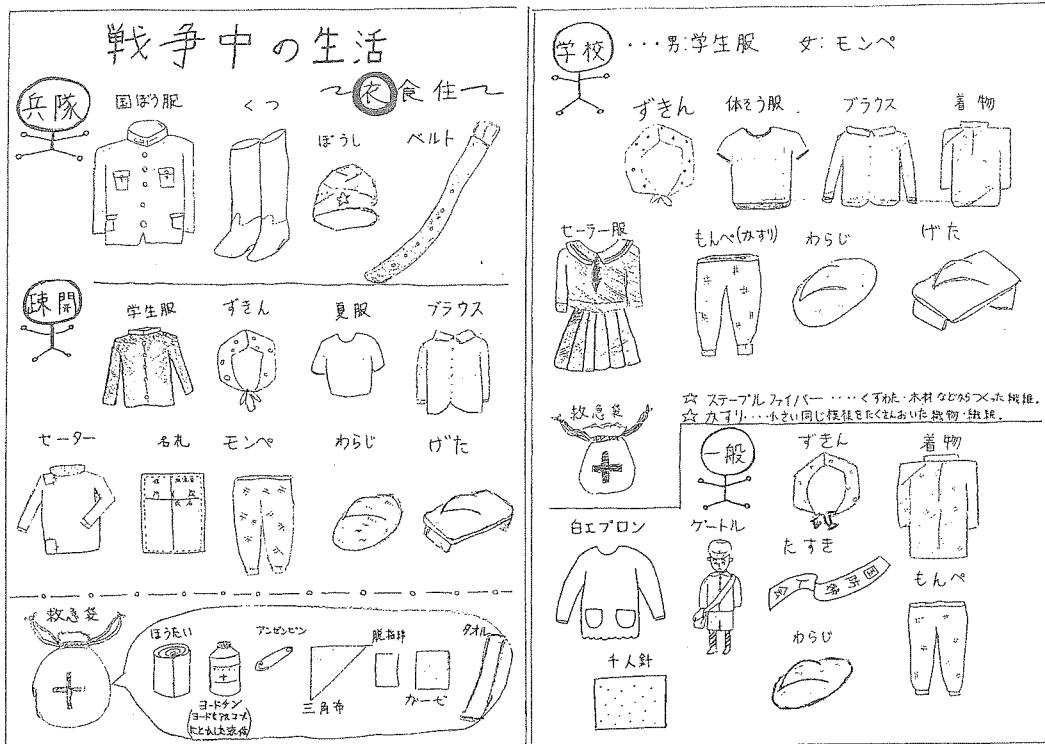
証 言

- ・寝ている時は全てを忘れていられるので、寝ることが一番の楽しみだった。
- ・不自由な生活でも、子どもがすくすくと成長して、表情が豊かになってくる様子を見ての感動が大きかった。戦地の主人にその様子を知らせる便りを書くのが楽しみだった。
- ・主人が工場から元気で帰ってきてくれることがうれしかった。
(空襲がひどく、朝出かけて帰るまでに、死んだりケガをしたりする人が多かったから。)

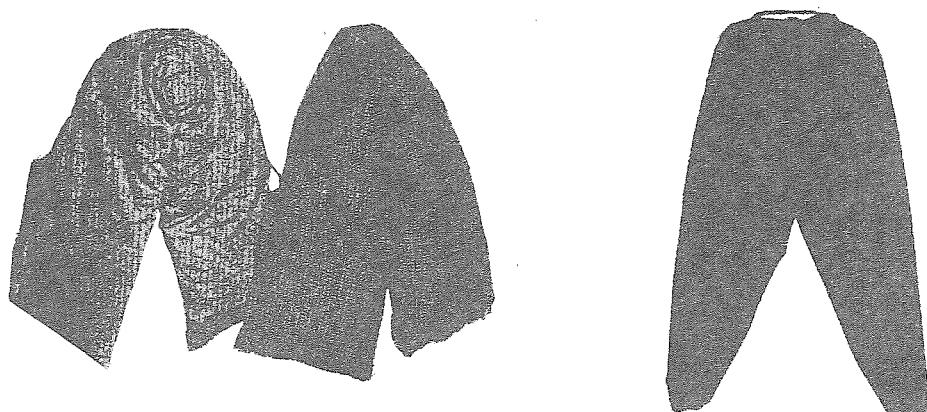
1 衣生活

◆当時の一般的服装

・当時、それぞれの人達はこのような服装をしていた。



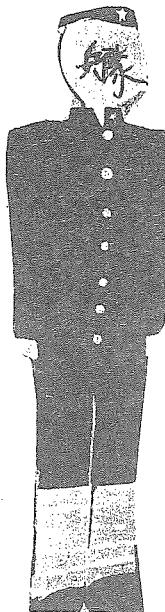
文化祭で展示された「衣生活」の模造紙



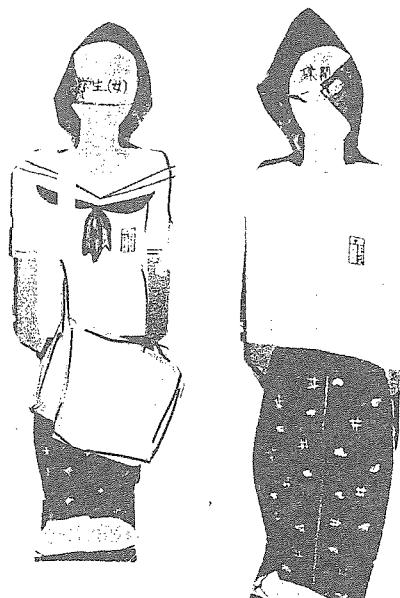
◆衣生活の実際

兵隊になっていた人の証言

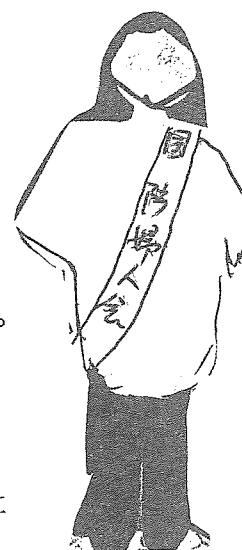
- ・夏の衣服はクンバスの様な生地で汗で、ぬれると固くなつた。そのため、シワシワのできたところで摩擦し、股の所がすべて股ずれができ、難儀した。そこで、摩擦しないように上から縛って歩いた。
- ・軍隊での階級が進むにつれて、服につける星の数が増えた。（1等兵が星2つ、上等兵が星3つ、伍長、兵長、軍曹将校と順々に進級して増えた。）
- ・兵隊になる時にもらった千人針は、いつも肌身離さずつけていた。5円玉がぬいつけあり、「これで死線（4セン）を越えることができる。」と喜んでいた。



学校へ行っていた人の証言



- ・上着は、国民服といってステーブルファイバー（スフ）という生地で作られた学生服だった。下は、カスリの古着で母や姉にモンペを作ってもらって着た。いつも防空頭巾を持っていて、いざ空襲となると頭から首にかぶった。



一般の人の証言

- ・着る物について残念といえば、こんなことがあった。よそ行きの紋付き、羽織、袴等夫婦二人分の晴れ着類を箱行李に入れて西脇神社上の島の小屋へ疎開させていた。ところが、終戦直後昭和20(1945)年9月17日の水害で、根こそぎ小屋が壊れてしまって、神社の鳥居と共に海に流されてしまった。

2. 食生活

◆当時よく食べていた物ベスト3

・当時、このような物をよく食べていた。

戦争中の生活
～衣・食・住～

1位	麦	その他	カボチャ焼き・とうもろこし あめ・とうりゅん・米・外米 ・つけるもの・梅干・野菜・魚 ・みそ汁・肉・卵・塩こぶ
2位	住		
3位	大豆・豆乳スープ		

兵隊 ★普通時…大隊のあと 中隊 が食べる

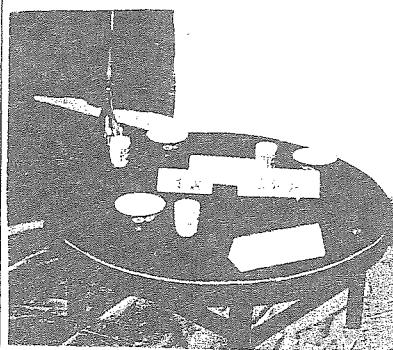
★戦いの時

1位	果物・動物・魚介類 (猪・ガエル・トガリ) (犬・鷄・ズメ)
2位	現地の人の米・家畜を取り上げる
3位	微まず食わず

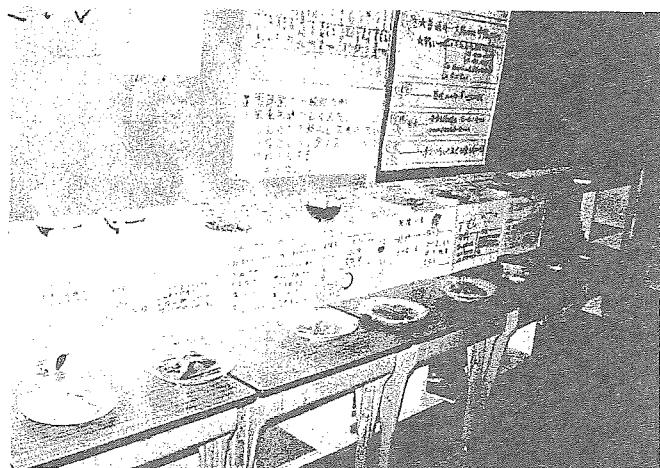
（珠銭）大 ----- 百姓さんの畠へ買い出しに行く

（学校）昼食 ----- 弁当を持て来る・家へ帰って食べる
・米だけの弁当は先生に怒られる

（一般）不 ----- 米にいろいろ混ぜる(量を増やす)



文化祭で展示された「食生活」の模造紙



◆食生活の実際

兵隊になっていた人の証言

- ・移動中は缶詰（非常食なので、普段は食べない）を食べることもあった。しかし、ほとんどの場合、その国の現地の人達の米（日本軍が来るというので、現地の人が逃げていった後残っている米）をたいて食べた。また、現地の人が飼っている鶏や豚を殺して食べた。ニューギニヤでは、木の芽や木の根を食べることもあった。もっと悪い時には、1週間水だけですごした。
- ・軍隊は玄米食だった。玄米は今まで食べたことがなかったので、膳の1/3あるいは1/4しか食べなくても、ひどく下痢をした。腹も張り、夜間の便所に行くのも間にあいそうもないで、すぐ便所に行けるように1ヶ月位はズボンをはいたまま寝た。

疎開していた人の証言

- ・百姓さんの畠へ、いもや野菜等を荷車で買い出しに行った。疎開先の村の人たちが、生徒を家に呼び、すし等を作つてよく食べさせて下さったことを有難いと思っていました。
- ・農家の親戚等を頼つて縁故疎開できなかつた、集団疎開（先生も一緒に、学校ごとで疎開すること）の子どもは悲惨だつた。いも御飯は大ごちそうで、ほとんど食べることはできなかつた。山からどんぐりを取つてきて、粉にして食べたり、いなご（バッタ）をとつてきて、いりこがわりにして食べたりした。しかし腹の足しにはならず、栄養失調のため、ほとんどの生徒がむくんでいた。親が面会に来てくれる時は、無理をしてわざかでも食べ物を持ってくれるので、皆、待ちこがれていた。しかし、それを食べると、普段食べられることが少ないので吐いてしまうこともあつた。飢えのため、その吐いた物まで食べることもあつた。

学校へ行つていた人の証言

- ・麦御飯に梅干し一つの「日の丸弁当」を持っていける子はまだよかつた。雑炊だと弁当箱で持つていくわけにはいかないので、家に帰つて食べてくる子も多かつた。
- ・米は作つていたので、いくらでもあつた。しかし、学校に持つていくと先

生たちが見て歩いて、米だけの弁当だと怒られた。だから麦飯を持ってきた子に少しもらって、上に麦飯をしいて米の御飯をかくした。

一般の人の証言

- ・大豆入りの御飯は確かにまずいけれど、職場では皆が同じ物を食べていたので不満はなかったと思う。ただ、大豆を体質的に受けつけないのか、慢性下痢症になって、食後必ず便所に駆け込む者が中にはいた。食べ物がない位なので、しょう油や塩、調味料はもちろんなく、海の水を煮て塩をつくったりした。

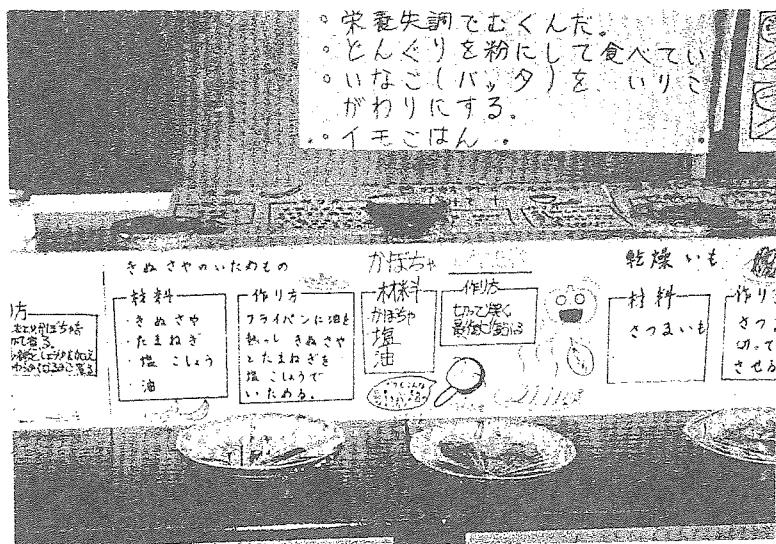
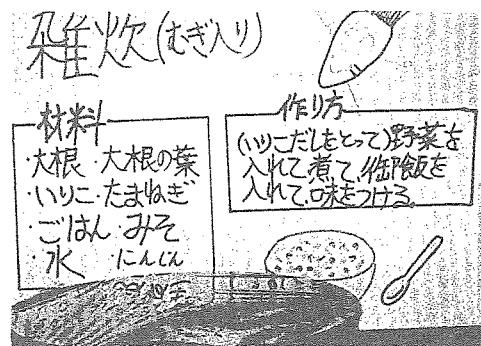
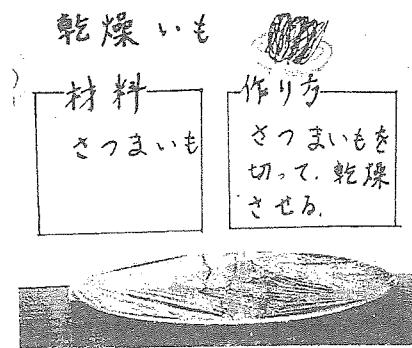
◆疎開していた人のメニュー

縁故疎開の豊かな例

個人的に農家等の親戚を頼ることのできた縁故疎開の人は、比較的恵まれた食生活をしていた。次のメニューは縁故疎開をされた方につくっていただいた物である。これは、縁故疎開の中でもかなり豊かな例といえる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
朝	菜つ葉汁 つけ物	ねぎ汁 つけ物	菜つ葉汁 バッタ つけ物	菜つ葉汁 つけ物	菜つ葉汁 バッタ つけ物	菜つ葉汁 バッタ つけ物	菜つ葉汁 海苔 つけ物
昼	すいとん つけ物	すいとん つけ物	日丸弁当 煮豆 海苔	すいとん (ひえあわ入り)	大豆飯 (さつまいも 入り)	すいとん (大根入り)	すいとん (ひえあわ入り)
夜	雑炊 菜つ葉汁 昆布煮付 つけ物	雑炊 菜つ葉汁 煮豆 つけ物	大根飯 つけ物	雑炊 菜つ葉汁 大根油煮 つけ物	雑炊 大根汁 豆腐 つけ物	いも飯 菜つ葉汁 大根おろし	雑炊 菜つ葉汁 つけ物
おやつ	きな粉 むすび		どんぐり乾パン	どんぐり饅頭	どんぐり饅頭	さつまいも	くり

◆当時の主な食べ物の作り方



名 前	材 料	作 り 方
乾 燥 い も	さつまいも	・さつまいもを切って、乾燥させる
す い と ん (団子汁)	団子(小麦粉)、水 大根と人参の葉、塩	・野菜を煮て、味つけをして、団子を入れ、団子が浮くまで煮る
麦 雜 炊	大根、大根と人参の葉、 玉ねぎ、麦ご飯、塩、水	・野菜を入れて煮て、麦ご飯を入れて、味をつける
い も 团 子	いも、小麦粉、ぬか きな粉	・いもを煮てつぶし、小麦粉とぬかを混ぜて、粉が煮えるまでとろ火で混ぜながらつく。団子にして、きな粉をつける
かぼちゃ団子	かぼちゃ、小麦粉、ぬか きな粉	・かぼちゃを煮てつぶし、小麦粉とぬかを混ぜて、粉が煮えるまでとろ火で混ぜながらつく。団子にして、きな粉をつける
いもづるの 煮付け	いもづる、しょう油	・いもづるをゆでて皮をむき、適当に切ってしょう油でいためる
か た 豆	大豆 海水より濃い塩水	・大豆をこがさないように中火でいる ・一通り火が通ったら、海水より濃い塩水をふりかける ・水分をすっかり蒸発させる
ふかしパン	炭酸 砂糖(サッカリン) 小麦粉、水、さつまいも 大根の葉、人参の葉	・小麦粉、さつまいも、ゆでた大根の葉や人参の葉と炭酸と水と砂糖(サッカリン)を混ぜて蒸かす
かぼちゃ煮	かぼちゃ、しょう油	・かぼちゃを2cm角に切って煮る その後しょう油を加え、かぼちゃが柔らかくなるまで煮る
い り 豆	大豆	・カラいりする
かぼちゃ焼き	かぼちゃ、塩	・切って焼き、最後に塩をふる

3. 住生活

◆当時よく住んでいた所ベスト3

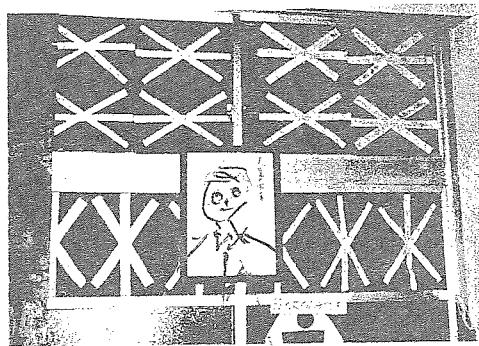
- ・当時、このような所によく住んでいた。

戦争中の生活		一般
 どんな所に住んでいたか		1位 自宅(1人) 2位 病院(2人) その他 寄宿舎、田舎
★1位 ヤシ林に粗末な兵舎(10)		
★2位 中国の人を追い出し、 その民家を改造(8)		
★3位 野宿(4)		
★その他) 現地の学校、寺、飛行隊、テント、ベッド やら、ヤシ、大部屋、ジャングル、ハンモック		
・兵舎 …… 板張りの部屋に、テーブルがあり、梁から 梁へ釣り床をつけて寝た。		
 1位 寺(6人)		
その他) 知り家、アーチの人家、 立派な家の人家、あらや、 農家、学校		
・道端に軍の施設がない様に、壁があつた。		
		備えたり物
		・焼夷弾に備え、水滝火たきを置 いていた。 ・防火水きを造った。 ・バケツに水を入れておいた。 ・砂袋をおいていた。
		家の中
		・床に防空壕を據る。(中に非 常食を入れた。) ・窓ガラスには、壊れてもバラ バラにならない様紙をはった。 ・夜は灯火管制のため、電灯に黒 い布カーテンをかけた。(不自由)
		家の中
		・壁を黒くしたり密着した家は建物疎開といって間をあけた その他) 戦争で使える物は仮塙からおひな様まで出し子供が 泣いた。(家の中は何もない。)
		家の中

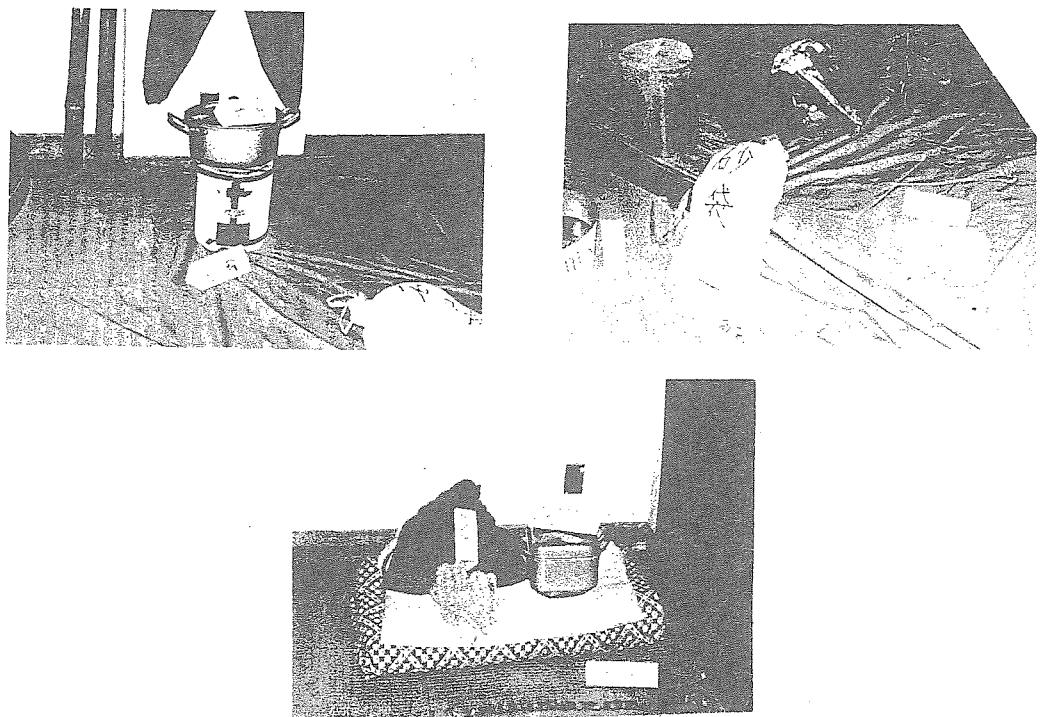
文化祭で展示された「住生活」の模造紙



カマド



窓



◆住生活の実際

兵隊になっていた人の証言

- ・その時々によって変わるが、作戦中は大変だった。野営したり、現地の人の集落がある時は、現地の人が逃げだして空になった家に入って寝たりした。

一般の人の証言

- ・昭和18(1943)年4月に結婚してすぐ移った家は、新築5年目の家だった。家の外側は、周囲は白壁だった。特に道路側は、柱も見えない全面白壁だったが、空襲の目標になるという理由で「迷彩（まだら模様）にせよ」と言われた。そして、ベンガラにススを混ぜたものを塗られた。二階の部屋が空いていたので、岡山県の津山から広海軍工廠に働きに来ていた女子挺身隊の二人に貸した。
- ・戦争に使えるものは、金属製のものはもちろん、仏壇まで国に供出し、家中は空っぽで道具らしいものは、何もなくなってしまっていた。子供のお雛さんまで出して、子供が泣いたことを思い出す。

●敗戦直後

1. 衣生活

- ・全てに不自由したので、着るものもなく、自分の着物をほどいて子どもの服を作った。赤ちゃんが生まれてもおしめを縫う布がないため、ゆかたをほどいておしめにしていた。

2. 食生活

- ・戦争中以上に食べ物はなく、今ではたくさん生えているよもぎが道端に一つもなかった。今考えると、不思議な気がします。
- ・かぼちゃを一つもらい、めずらしいものなのでどの様に食べるのかいろいろ考った。でも、どの様にして食べたか、今はおぼえていない。
- ・空襲で丸焼けにならなかつたので、昔の衣服等を農家で米と交換してもらい、それで何とか食いつないでいた。

3. 住生活

- ・小さなバラックに住んでいた。木切れを拾ってきて自分が作っただけなので、やっと人が入れるぐらいの大きさのものだった。
- ・空襲で丸焼けになってしまい、雨をしのぐのに困った。

4. つらかったこと

- ・子どもに食べ物をしっかり食べさせられなかつたのが、一番つらい。
- ・敗戦後のどさくさで金融封鎖になった。自分のお金でありながら、自由に使われなかつた。何のために苦しい生活をしながら貯金をしたのかと、悔しかつた。
- ・戦死された方の遺骨をお迎えする時、遺族の方の心中をお察しすると、何ともいえなかつた。
- ・夫が戦死したので、女手一つで4人の子どもを育てるのがつらかつた。夜も寝ないで内職（編み物、針仕事、縫い物）したりして、生活におわれる毎日だつた。
- ・配給の大豆を食べて消化不良で亡くなつた子どもが1人いた。
- ・食糧難のため、栄養失調で父親が亡くなつていた。

- ・終戦になって中国から引き揚げて帰る時、夜通し山を歩き続けた。子どものおしめは、木切れにわたして乾かしながら2人が持つて歩いた。中国の人が「子どもをくれ。」と言うので、かくして連れて帰った。何日も歩き続けて、やつと日本に帰る船に乗った時、子どもを連れている人はほとんどいなかった。ほとんどの人が、子どもを死なせたり、途中ではぐれたり、中国人にあげたりした為だった。

5. 楽しかったこと

- ・明るい電灯のもとで一家団欒の時を取りもどしたことが、何物にもかえられない喜びだった。
- ・言語の自由がもどった。

6. その他

- ・昭和20(1945)年10月7日、長浜湾に初めてアメリカ軍が上陸した。この時、ものすごくこわい人が来るということで、若い人は屋根裏や家の戸を全部閉めて顔を見せなかつた。言葉も分からぬし、こわい思いをした。
- ・終戦となり、日本が負けたというのに悪いようすけれど、空襲警報のない生活に本当にほっとしました。しかし、物資不足は続きました。食糧事情も、言葉では表現できないくらい困難を極めたのは、言うに及ばずでござります。

●生活用語

慰問　　海外にいる日本軍のために、日本から来てなぐさめてくれる歌手等。

医療袋　　薬などが入っている袋。いつも持ち歩いていた。

学徒動員　　小学校の大きい生徒や中学生等が工場へ働きに行かされること。

・旧制女学校の在学中でした。学徒動員命令が下り、勉強しなくてよいので、みんなして喜びました。旧広海軍工廠に配属され、初日には喜び勇んで行きました。ところが、はじめて見る現場（鋳物工場）では、鉄鋼などの金属を溶かした真っ赤などろどろした液体を入れた容器を、クレーンが頭の上を運んで行きました。上を見ればそれが落ちてきそうで、下を見ればやけどしそうです。また、大きな金属音がして、話し声など全く聞こえません。子ども心に「地獄だ。」と思ったとたん、涙が出ました。私達は、人間魚雷の推進器の鋳型を作っていました。隣の機械工場では、魚雷艇が作られていました。私達はそれを見学に行き、仕事に対する認識を新たにしました。それ以後は国のために一生懸命働きました。樂いはずの青春は、私達にとっては、いつも腹のすいた貧しい灰色の青春でした。卒業式もなにもなく、終戦と一緒に荒れ果てた荒廃の社会に放り出され、一番勉強していない世代です。

供出　　金属を溶かして鉄砲の弾を作るため、金、銀、銅で作った物具や花器などの生活用品を軍へただで差し出した。そのため、多くの人が生活に不自由して困った。お難様まで出して子どもが泣いた。

勤労動員　　女性達が武器を作るために工場へ働きに行かされること。

空襲 アメリカの飛行機の攻撃によって、軍事施設だけでなく普通の家も焼かれた。

昭和20(1945)年3月10日 東京大空襲12万人 30万戸

昭和20(1945)年3月14,15日 大阪大空襲 13万戸

空襲警報 B29が襲ってきた時に出される警報。

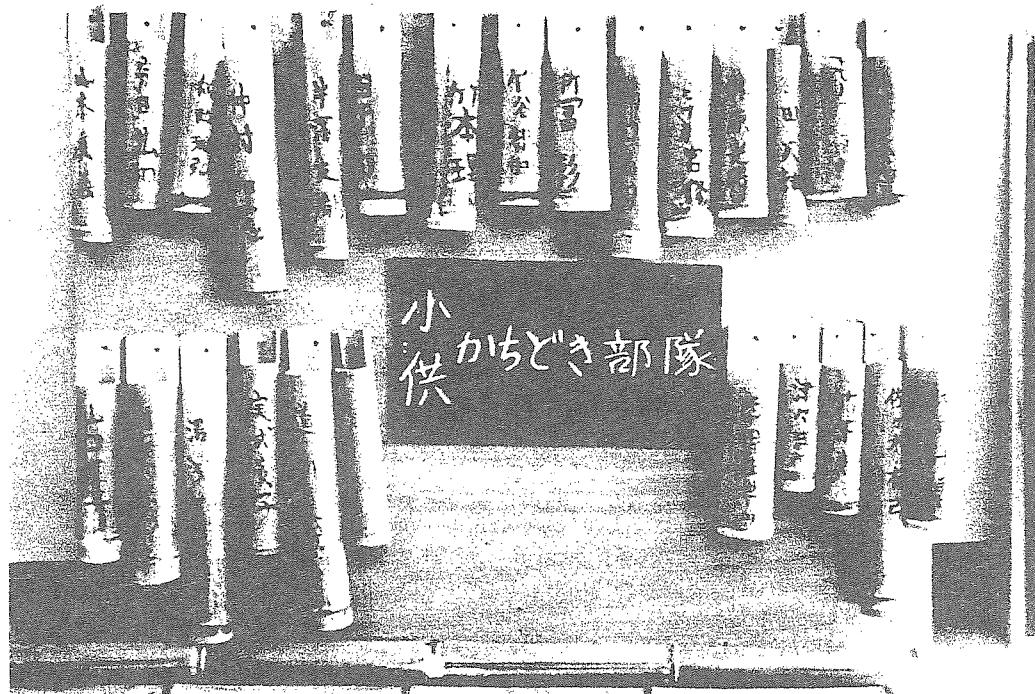
- ・当時、ご飯は「どしかま」で炊いていた。空襲のため、ひどい時には一日に何十回も逃げていた。ご飯を炊いていても途中で火を消して逃げなくてはならないので、食べれるようなものが出来ないことがよくあった。
- ・畑仕事をしていても、外を歩いていても、空襲警報の度に、その場に伏せて動かないでいた。すると、「死んだもの」と思って見逃していった。子供を連れている時は、子供を腹の下にして伏せたりした。
- ・学校では、警報のサイレンで御真影や教育勅語を避難させた。

黒塗りの壁 昭和時代の家の壁は、主として白色が多かった。白は敵機によく目立つので、目をかすめるために墨で塗って黒くした。まだら模様にすることもあった。

警防婦人会 男は出征（兵隊に行くこと）か工場に働きに行くため、家に残るのは女子と子供だけであった。その婦人達で作った、町の警固をする会のこと。全ての訓練は女子の集団となった。出征兵士の見送りや、慰問袋を作ったりした。

国民学校 国のために役立つ国民を作る学校。

小供かちどき 子ども達が、自分のお小遣いを竹筒にためて、その貯金で
部隊 軍の飛行機を買おうとした。二、三十億円をめざした。



御 真 影 収められた天皇の写真のこと。学校の奥深く収められている。普段はあけてはならない。天皇は神として拝まされた。学校が火事になり、御真影が焼けたため、自殺した校長先生もいた。

集 団 駆 開 空襲をさけるため、都會の子ども達が学校ぐるみで田舎へ行くこと。

出 征 児 童 成人男子は次々と死に、学生も戦場へ行かされた。中三で特攻隊へ行き、多くの若者が死んでいった。

従軍看護婦 女は看護婦として戦場へ送られた。

食 糧 班 働き手の男が戦場へ行ったため、残った人達も武器を作るために働いた。そのため食糧をつくることができにくくなり、国が指定して食糧をつくらせた。

女子挺身隊 工場で働くされた女子学生のこと。

・私はもともと機械工であった。昭和16年6月から「工作研究係」へ移り、後に設計課へ統合された。しかし、仕事はあくまで工作研究で、機械工場とは切っても切れない間柄だった。あちこちへ点在した機械工場へ女子挺身隊が配属されたのは、昭和19年春頃だったと思う。主として県北地方からの女学生だった。モンペに白鉢巻もりりしく、寮舎から隊列を組んで、元気に軍歌をうたって通勤していた。すぐに工作機械の操作を覚えると、単独で部品加工を始め、一昼夜三交替で休みなく働いてくれた。なお、長浜にある「イサ電機」の女主人の三崎さんは、当時呉の精華高女の生徒であったが、挺身隊員として設計課へ配属されており、職場であった横路の説教所で共に終戦の詔勅を聞いた間柄である。

機械工場の係員で海軍技手であった広大新開在住の壇正二氏が、昭和58年6月「第十一海軍航空廠發動機部之記録」を編集発行した。その中に女子動員学徒について次のような名文があるので紹介させていただく。

「動員により、樂しかるべき学窓生活と父母のひざもとを離れ、異郷の無味乾燥な女子寮で粗食に甘んじ、酷暑の昼、嚴寒の夜、三交替の激務に奨励、航空機生産の一翼を担った女子学徒のりりしくも可憐な群像は、その行進中の軍歌と共に、私達の脳裏に深く刻み込まれております」

なお、その本には、壇さんの部下のうち、二人の女子挺身隊員（双三実業高校）が感想文を寄せていた。一人は、「寮の大蔵御飯がまづく、喉を通らず、無理にのみ込んだ」という話を書いていた。もう一人は、「広の寮の地元の婦人会が正月に餅をくれた」話やトンネル内での作業の話を書き、最後に「挺身隊時代は、私達の青春のひとこまとして懐かしく、また、強烈な思い出があります」と書いてあった。

千人針 出征される兵隊さんの無事を祈って、15の女人4人が真心をこめ赤い糸で一針一針縫いあげた、約70cmくらいのさらし布。（それを兵隊さんのお腹にまいて、敵の弾をよける魔よけとする。）

竹槍訓練 万一敵兵が上陸した場合にそなえ、国防婦人会等が行っていた竹槍でする訓練。銃後の守りとして、敵兵にむかう必殺の技の訓練を日頃うけていた。竹槍は、青竹の先をするどくとがらして、槍のかわりとした。男は出征か工場で、家に残るのは、女子と子供だけであったので、全ての訓練は女子の集団となつた。

第11海軍航空廠（広11空廠）

広につくられた海軍の兵器工場のこと。黃幡山の中には、トンネルを掘って地下工場もつくられていた。昭和20(1945)年5月5日の空襲で壊滅的打撃を受けた。現在の米軍基地、及び中国工業研究所の所にあった。（現在アメリカ陸軍は弾薬庫の集散基地としている。）

・各地から召集された学徒動員が、モンペイ姿に白いハチマキをして、並んで寮から工廠へ行く行列をよく見た。ダラダラ歩いたり、しゃべったり、つらそうな態度の人は見られなかつた。

徴兵 国が、20才以上の男子を強制的に兵隊にしたこと。はじめは大学生は免除されていたが、後には大学生も学徒出陣した。昭和20(1945)年ごろには、40才や50才の男子も徴兵された。

・昭和14(1939)年に徴兵検査を受け、そのまま福山師団に入隊しました。すでに満州事変が始まつておひ、まもなく太平洋戦争が始まりました。そんな時勢の中で、私は3ヶ月位の訓練後、海外へ送られました。冬季でしたが、夏服を着用させられ、現在の広島港から乗船しました。家族はもちろんのこと、本人にもどこへ行くかは秘密のまま、中支（中部中国）に続き南支（南部中国）へ送られたのです。その後、マレー半島等、中国と南方で昭和18(1943)年まで実戦部隊に在籍していました。ところが、ミンダナオ島で肺結核となり、戦地の病院で3ヶ月位療養しましたが、治らず、病院船で内地（日本）の福山の陸軍病院に輸送されました。広島港を出発してから病氣で福山に帰るまでの間、数知れぬほどの死線を越えてまいりました。

福山輸送後は、さらに広島病院に送られ、結核患者として

昭和20(1945)年3月まで療養しました。ここで一応治療済みと診断されて、兵役免除となり、除隊となって現在地の自宅に帰りました。しかし、病気とはいえ、自宅にいると徵用（徵兵のこと）のかかる時代でした。そこで、東京の叔父が軍需工場を経営していましたので、退院後ただちに東京へ行きました。昭和20(1945)年7月1日、東京で呉空襲の新聞記事が出ました。さっそく帰郷したところ、高所に建っていた一軒家のわが家は焼夷弾で全焼し、あとかたもなくなっていました。幸い防空壕に入っていた家族は全員無事でした。本当にうれしかったです。兄弟3人とも復員して現在も健在でいます。

灯火管制 敵機が襲来した時の目標をつくらないため、電気の光を外にもらさないようにしたこと。

・家の電灯に黒い蛇腹の布の覆いをかけ、部屋を暗くしました。窓の外に灯がもれると怒られました。空襲警報が多くなるにつれて、いつも部屋が暗くなり、いつそう惨めな気になってとても嫌でした。

特殊爆弾 広島、長崎に落とされた原子爆弾のこと

(新型爆弾)
(ピカドン)

・広島へ原爆が投下されたのは、周知の通り、昭和20(1945)年8月6日午前8時15分である。その時、私は用事があつて家へ帰っていた。5月5日のB29による空襲爆撃以来、我々の職場（広第11空廠）は横路の説教所へ疎開していた。しかし、西山のトンネルに機械工場が点在しており、毎日のように横路と西山を行ったり来たりしていた。その行き帰りの途中に家へ帰っていたものと思う。その朝、2階の部屋にいたのだが、突然蒼白い電光が走った。「天気がよいのに雷とは変だな。」と思ったが、その雷がいつまで待っても鳴らない。ますますおかしい。「ではあの稲光は何だったんだ。」と思っている時、突然、ゴーッと今まで聞いた事のないような地鳴りがして、家がミシミシと揺れた。隣の主婦が金切り声をあげて子どもを呼ぶ声が聞こえ、たちまち近所中が騒然とした。『こうしてはおれない、すぐ帰らなければ。』と言って、私は家

を飛び出した。どんどん急いで長浜峠へ出た時、左の方を見て、思わず「あー。」と声を上げてしまった。休み山の向こうから、真っ白い雲のようなものが広がっている。青空を背景にくっきりと際立って、正に見事とも言えた。私は「広島に違いない。呉がやられて一ヶ月にもなるのに広島が何事もないのは変だと思っていたが、これだったんだ。何か変な物を落とされたに違いない。」と思った。急ぎに急いで職場である横路の説教所へ戻ると、広島が新型爆弾にやられた話でもちきりだった。午後4時頃だったか、長浜へ下宿している同僚の所へ、父親が字品から歩いて説教所へ面会に來たらしい事がわかった。その父親の話を聞いて、皆、声もなかった。なお、ピカリと光ってドーンと来るまで忘れるほど時間がかかったので、「どれくらいかかったのか。」と暇に任せて計算してみた。あの時の気温を30度とし、長浜から爆心地までの直線距離を26kmとすると、何と1分14秒もかかった事になった。

隣組 今でいう、自治会および各班の組織。戦前戦後を通じて、回覧板をまわして連絡をとっていた。

- ・魚、野菜、日用品の配給は、家族の人員数により隣組ごとに配分される。分けるのは班長の役で、特に魚の大きいものは大変だった。と言うのは、配給の魚が一人当たりの重さの人数倍なので、頭と尾の切り分け方に気をつかったからだ。よく文句を言って来られた。
- ・空襲に備えるため、灯火管制に続いて隣組が総出で裏山に防空壕を掘ったものです。少ない食糧のため腹をすかせながらも、皆不平の一つも言わず、長い時間をかけて自らの命を守るための防空壕を一生懸命協力して完成させた。一応不完全ながらもね。
- ・昭和15(1940)年9月に内務省通達で全国に設置されたと思います。互助組織で、配給切符の配布、国債の割当て、防空演習、勤労作業等を行った記憶があります。隣組の歌ができて、昭和15(1940)年6月19日夜7時半からJOAKラジオで連日放送されました。徳山たまき指導であったと思います。

隣組の歌

岡本一平 作詞
飯田信男 作曲

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | トントントンカリと隣組
まわしてちょうどいい回覧板 | 格子を開ければ顔なじみ
知らせられたり 知らせたり |
| 2 | トントントンカリと隣組
御飯のたき方 垣根越し | あれこれ面倒 味噌 しょう油
教えられたり 教えたり |
| 3 | トントントンカリと隣組
たがいに役立つ 用心棒
まわしてちょうどいい回覧板 | 地震 雷 火事泥棒
助けられたり 助けたり
知らせられたり 知らせたり |
| 4 | トントントンカリと隣組
こころは一つの 屋根の月
まわしてちょうどいい回覧板 | 何軒あろうと一所帯
まとめられたり まとめたり
知らせられたり 知らせたり |

徳山たまき 昭和17(1942)年38歳で急死、歌手
岡本一平 北海道生まれの漫画家(岡本かの子の夫、岡本太郎の父)
飯田信男 大阪生まれの作曲家

配給 物がないので、公平に分配するために、人数や各家にあたるように、分配すること。衣料、食料は全て配給で、長い一列行列を作った。配給所へ切符をもって行って食料等を買っていた。(切符がないと、もらえない。)
・大豆をつぶしたような配給でも、袋をもって並んだ。衣料切符は人員割りで家庭へ配布された。
・油もタバコも券だから、思うように買えなかつた。

日の丸弁当 アルマイドの小さな箱に、まん中に梅干しが入っていただけの弁当。ご飯は、麦やいもや大豆がほとんどだった。

防空壕 空襲を避けるために掘った穴。

・毎日2,3名の人が、自分で持っている農具を使って掘った。土砂はカマスに入れ、縄をつけ肩にかけて引き、適当な場所に運んだ。毎日同じことの繰り返しの作業だった。日時を要し、完成しないまま終戦を迎えたところもいくつかあった。

爆風がこないように土ぶくろが入口につんであつたが、出入口が1つしかないと煙が入ってきて逃げる所がなく、煙で亡くなった人も多い。中には主に道具、衣類、仏壇等を入れていた。

減私奉公 自分を犠牲にしても、お国のためにつくすこと。「勝つまでは、この職場で働きます。」と誓わされた。

女性たちのスローガン

「ほしがりません勝つまでは」

私利私欲すべてをしりぞけ奉仕する。天皇、皇后のお写真を粗末にならぬようとする。どのように欲しいものがあつても“ほしがりません勝つまでは”と我慢した。

「ぜいたくは敵だ」

戦争で戦っている人に比べ、ここでくらしている人は幸せなので、あれがほしいなどのぜいたくはしない、という意味。

「兵隊さんは命がけ 私たちはタスキがけ」

兵隊さんは命がけで戦場でがんばっているので、国防婦人会の私達は、タスキがけをして日本でがんばるという意味。

「女性の職場は勇士の戦場」

「有閑の時を盗む主婦なきや」

「女等と笑った人に 今こそ見せんこの腕前」

「米英の女どもには負けません」

● 年 表

歴 史 年 表

年代	呉 市	日 本	世 界
1886 (明治19)	呉港への民間船入港 制限		
1889 (明治22)	呉鎮守府 開庁 呉海軍 設置 以後 1920 1923, 1924, 1930, 1931, 1933 1934, 1941, 1942年 拡張		
1891 (明治24)	呉鎮守府造船部で水雷艇進水 以後5隻建造		
1894 (明治27)	呉郵便局、軍事郵便取扱局の 指定を受ける		
1897 (明治30)	呉海軍造兵廠 設立 (←呉鎮 守府造船部改める) 以後 軍艦2、砲艦2、水雷艇2、巡洋 艦2 進水 以後 1898年 拡張		
1899 (明治32)	呉市が要塞地帯に指定される		
1902 (明治35)	呉市 誕生		
1903 (明治36)	呉海軍工廠 設立 以後 1904, 1906, 1909, 1910, 1912 1920, 1921, 1923, 1926, 1927 1929, 1935, 1936年 拡張 以後 駆逐艦「吹雪」他10 戦艦3、巡洋艦4、潜水艇32、 運送艇2、敷設艇2、給油船2、 特務船3、航空母艦2、水上機		

年代	呉市	日本	世界
	母艦4、特殊潜航艇5、人間魚雷2進水		
1923 (大正12)	呉海軍工廠広支廠で練習機完成 以後 1931年 拡張 以後 飛行機14機、飛行艦1機、攻撃機1機 作る 広海軍工廠 設置 (←呉海軍工廠から独立)		
1930 (昭和5)	広村の長浜港 約15000坪 埋め立て完成		
1931		満州事変	
1932		満州国をつくる 五・一五事件 国際連盟を脱退	ドイツでナチスが政権をとる アメリカでニューディール政策開始
1934		中国共産党の大遠征 (~36)	
1936		二・二六事件	フランス・スペインに人民戦線内閣できる
1937		日中戦争 (~45)	
1938		日独伊防共協定 国家総動員法が成立	
1939			第二次世界大戦 (~45)
1940 (昭和15)	広村大新開に工員養成所 広海軍工廠に徴用工員	日独伊三国条約	
1941 (昭和16)	防諜規定により、公序・学校等の写真・絵画禁止	太平洋戦争 (~45)	
1944 (昭和19)	広町の安永新開に工員養成所 重要防空都市疎開地域に指定 呉工廠へ中等学校生徒動員開始		

年代	吳 市	日 本	世 界
1945 (昭和20)		原子爆弾、広島・長崎に投下される ソ連が日本に宣戦 8月8日ボツダム宣言受諾 戦争終わる	ヤルタ会談 ドイツが降伏 ボツダム会談 国際連合発足
1947 (昭和22)	呉市立横路中学校 長浜分校 創立		
1948 (昭和23)	呉市立横路中学校 長浜分校 第1回卒業式		
	呉市立長浜中学校 創立		
1949 (昭和24)	呉市立長浜中学校 第1回卒業式		

活 動 記 錄

1993 (平成5)	第一学年 入学式 A組 男子16名 女子15名 担任 大倉新吾 (転入男子1名 女子1名)			
	B組 男子15名 女子15名	担	任 保田えり子	
	(転入女子1名)	担	任 福吉美香	
1994	第二学年 進級 A組 男子15名 女子16名	担	任 大倉新吾	
	B組 男子15名 女子15名	担	任 保田えり子	
		学年担任	福吉美香	
長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」に取り組む				
経過 6月		映画「ベトナムのダーちゃん」を鑑賞 ・「知らなかったでは済まされない」という早乙女さんの姿勢に共感		

		・ダーちゃんと同じ思いを持った地域の人々から、自分たちは何も受け継いでいないことに気づき、「その体験や思いを知りたい」と話し合う。
7月	長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」を行い、文化祭で展示発表する事を話し合い決定	
夏休み	聞き書きを実施	
9月	聞き書きを整理・学習	
10月～11月	聞き書きの整理・学習をもとに、文化祭に向けて展示物を作成	
11月16日	文化祭（テーマ「受け継ごう50年目の平和を」 －長浜・小坪の「第二次大戦体験の 聞き書き」から－）	
11月～12月	聞き書きをもとに、冊子を作成	
1996 (平成8)	第三学年 第48回	卒業式（予定）

●生徒感想文から

2年B組 道浦 美代

私達は、「戦争」という課題を今までいく度か勉強してきました。しかし、私達が今住んでいる、ここ小坪・長浜については、ほとんど知りませんでした。

夏休み——今まで知らなかったその小坪・長浜について、私達は聞き書きをすることになりました。私は8軒の家をまわりましたが、どの家の方も親切に、私達が知らなかった事実を丁寧に教えてくださいました。今の私達からは想像もできなかつた様な事が、その中にはありました。戦争という、悲さんな事実で、父や母や家族をなくした人、食べる物が何もなくヘビや犬まで食べる生活……。「うそのような事実が、私達の住んでいる、ここ小坪・長浜にもあつたんだ。」ということの重大さを改めて感じました。

この聞き書きをした中で、「思い出したくないので話せない。」と言われた方もいました。話の最後に、「頑張ってね。」と、力強く言ってくださった方もいました。その人達の心の中にどんな傷があるのかはよく分かりませんが、戦争の無益さを身をもって体験された方々の苦労を、今の私達は無駄にしてはいけないのだと思います。

2年B組 池田 千恵

聞き書きをしていると、おばあさんは、自分が体験をしたこわいことやつらかったことを私に聞かせてくれました。「当時、私は先生をしていて、おなかには赤ちゃんがいました。空襲で防空ごうの中にいた時、私とおなかの赤ちゃんのために生徒達がざぶとんをかけてくれました。だけど赤ちゃんは戦争のために死にました。生徒がしてくれたことがうれしかった。」と。

私はすごく悲しくなりました。おなかに赤ちゃんがいて、食べものは十分になくて、苦しい生活だったんだとすごくよく伝わりました。

2年A組 貞広 由香

文化祭当日、みんなが見に来てくれるか、とても不安でした。自分が思っていたよりたくさんの方が来していました。150人以上の方が来られました。おじいさんおばあさんがとてもよろこんでくれていたので、本当にうれしかったです。

文化祭が終わってみて、いろんな事を学んだと思いました。自分が思っている戦争とちがって、それ以上の苦しみ、悲しみをあじわっていた事が、分かりました。ほんとうに、いい勉強になったと思いました。

2年A組 中原 絵美

「忘れたわあ。」「そんなこと話されんわあ。」などと、一件目から計十件目くらいは断られました。でも、写真を見せてくれたり、その当時の物を見せてくださったりして、すごく一生懸命話をしてくださる方も中にはいらっしゃいました。すごくうれしかったです。泣きながら話をしてくださったおばあさんは、今一人暮らしで、「兄弟は全員戦死した。」と言われました。「気の毒」と言う言葉ではおさまらないくらい、すごくグッときました。聞き書きをしたおかげで夏休みにすごく成長したと思います。

2年A組 山城 沙季

「長浜にはお年寄りが多い。」と言われているけど、実際聞き書きをしてみると、「当時、私はまだ2、3才ぐらいじゃったけんね。」「私は、まだ生まれてなかつたけんね。」などと、戦争を体験した人はなかなかいませんでした。でも、体験した人たちは、少ししかない記憶や二度と思い出したくない当時のことなどを一生懸命に話してくれました。そんなつらい話を聞いて「なんとむぎんな出来事なんだろう。もうこんな思いはしたくない。ぜつたい……。」と私は心の中で思いました。

2年B組 西田 佳世

話している方たちの顔は、すごく悲しそうでした。「何が悲しかったですか。」と質問すると、「全部。」と言われた方がいました。今のような平和な時代では、そんな戦争の苦しさはあまりピンときませんが、5、6軒家を訪ねてみて何となく分かったような気がします。

2年A組 徳岡 次子

初めて聞き書きに行ったのは、私のおじいちゃんの所からです。順序よく話してくれていたのに、「兵隊に行ったとき楽しかったこと」になると、「そんなのあるわけない。」とつい泣いてしまいました。それが、一番心に残っています。「本当につらかったんだなあ。」と、改めて感じました。<中略>文化祭の展示のために戦争中の食べ物を作って、食べた人に聞いてみると、「まずい！」という声が返ってきました。防空ごうだって、長浜・小坪にこんなにあるとは知りませんでした。それに、B29が120機以上も来たなんて、全く知りませんでした。私達の身近にもこんなに戦争の傷あとが残っていたとは、思いもしませんでした。

2年A組 谷生 清香

おじいさんやおばあさんに戦争のことについて話してもらい、それをメモしていました。とてもつらかった事なのに、迷惑な顔ひとつせず、最後まで質問に答えてくれました。広島市内ほど大きな被害はなかったけど、それでもやっぱり家族が亡くなった人はけっこういて、「楽しかった事は？」という質問には、「楽しかった事なんてない。」と答えられる方が多かったです。「家に帰って家族みんなが生きている事がわかった時が一番うれしかった。」と話してくれる人もいました。

2年A組 辻 佳子

聞き書きは、思っていたよりも時間がかかって苦労しました。心よく引き受けてくれた人もいたけど、つらく悲しいことを聞くのはやっぱりつらかったです。とても親切な人もいて、とても詳しくていねいに教えてくださいました。話を聞くだけでもつらさやおそろしさが伝わってきました。

2年B組 山本 真義

聞き書きに行ったんだけど、行く前は「おじいさんもおばあさんも、昔の思い出を語ってくれるだろうか。」と正直言って心配でした。だけど、実際に聞き書きに行って見ると、快くひきうけてくれ、更に、自分が筆を持って書いてくれた人達もおられました。僕とパートナーが最後にお礼を言うと、おばあさ

んは、「もう二度と、あんな苦しいつらい戦争の思い出をこれからの人達に味わって欲しくないけんね。そのために協力したんよ。必ず文化祭を成功させてね。」とおっしゃってくださいました。やはり、おじいさんやおばあさんは本当は思い出したくなかったんだ、と思いました。ある家のおじいさんのように、「何しにあんたらに戦争時代の話をしなきゃならんのな。本で読みやえーじやろ。」と怒る人もいました。50年も昔のことでも話せないほどの重いことなんだと思いました。

2年A組 山根 かなえ

聞き書きに協力してくださった方達に話を聞くと、どの方に聞いても、「この話が役に立てばいいけどねえ。」と共に通しておっしゃっていました。

「当時を思い出すのは少しつらい。」という方もいたけど、いろんな話をしてくれださってとても感謝しました。

2年A組 濱田 英里

どの人達も悲しそうに話したり、涙目になって話してくれて、本当に戦争というものはつらかったということが分かりました。「楽しかったことは」って聞くと、多くの人は「ない。」って悲しそうに答えてくださいました。そんな人達の顔を見ると、さすがに聞きづらかったです。 <中略>

文化祭の日、夏休みに聞き書きをしたお年寄りもきてくださいって、じっくり見てくださいました。きっと、お年寄りの人は、戦争のことを思い出したと思います。地図を見ながら（ここで、子をなくした）とか、（この場所だけがをした）とか、いろいろ思い出したのではないでしょうか。つらいことを思い出したと思います。戦争にあったことないから、私には詳しくは分かりません。だけど、今回のことでの戦争のこわさを知りました。このことはきっと忘れてはいけないと思います。今のお年寄りもぜったい忘れてはいません。おそらくしすぎるから、忘れようと思っても忘れることができないと思います。だから今度は、私達がおぼえていよう。「戦争というものは、こわくてつらくて二度としてはいけない。」とおぼえていこうと思います。

2年A組 飯田 のぞみ

私たちが聞き書きに訪れた人の中には、九十歳を超える人もいました。耳が遠いために、何度も聞き返しながら答えてくれる人や、わざわざ他の部屋からめがねを持ってきてよく地図を見ながら答えてくれる人や、急におしかけた私たちに嫌な顔もせずに答えてくれる人等…。中には、戦争で兄弟を亡くした人もいました。その人たちにとって、肉親を亡くした戦争は思い出したくない思い出なのに、私たちに詳しく、やさしく親切に教えてくださった。 <中略>

なぜ、聞き書きに笑顔で応じてくださったのか、やっと分かったような気がする。きっと、みんなもう二度と戦争をしたくないからこそ、私たちに戦争のすべてを教えてくださったのだと思う。「もう二度と同じ過ちを繰り返さないでほしい。次の世代は平和な世界にしてほしい。」そんな願いが込められていたような気がする。

● 資 料

- ・「聞き書き」で提供していただいた
貴重な資料
- ・「聞き書き」に協力してくださった
方々



1. 聞き書きで提供していただいた 貴重な資料

◆様々な証明書

外地引き揚げ証明書

裏

表

外地引揚證明書

氏名(年齢)

○○○○○○○○

本籍地

○○○○○○○○

飯郷地

○○○○○○○○

右者昭和二十九年一月十五日外地ヨリ浦賀ニ上陸本日出發
セルコトヲ證明ス

昭和二十九年一月十八日

厚生省浦賀引揚援護局長

注意事項

一、本書ハ送給證明ニ代モノデ、カラ飯郷落付先ノ市區町村役場エ提示シ

テ轉入ノ手續ヲシテ下サイ

二、糧食五日分配給券 落付先ノ市區町村役場エ提示シ
テ全國配給共通配給ノモノデス

三、一般配給開始期日ハ出發日(或記載日)ヨリ左ノ期日経過ノ翌日ヨリ
ス(離去起點)

(イ)關 東 二 日 (ニ)九 州 五 日
(ロ)北陸 東海 近畿 三 日 (ホ)北 海 道 七 日

(ハ)東北 中國 四國 四 日

マラリア罹患証明書

兵部省軍事地圖課	右	本籍	現本籍
軍人姓名	馬良	部隊名	第十二混成旅團
年月日	昭和二十二年一月十八日	年月日	昭和二十二年一月十八日
發病地點	內地港灣	戰地到着日	昭和二十一年十一月廿九日
發病年月日	昭和二十一年十一月廿九日	年月日	昭和二十一年十一月廿九日
代官等級	少佐	所屬生兵	右
軍醫證明	馬良	軍醫證明	馬良
附註		附註	

兵食給与停止

証明書

兵食給與停止	昭和二十二年一月十八日
所屬部隊	第十二混成旅團司令部
(職)氏名	馬良
性別	男
年月日	昭和二十二年一月十八日
其	他
右、前記軍事地圖課所屬部隊ニ於テ兵食給與中止コト 昭和二十二年一月十八日轉出二件ヒテ昭和二十二年 一月十八日重食限リ兵食給與停止セシコト	
證明人	馬良
年月日	昭和二十二年一月十八日
署名	清賀上陸地支局長

◆軍隊手帳（陸軍）

日本は皇國なり。萬世一系の天皇上に在します。肇
國の皇謨を紹繼して無窮に君臨し給ふ。皇恩萬民に遍
く、聖德八紘に光被す。臣民亦忠孝勇武祖孫相承け、
英國の道義を宣揚して天業を翼賛し奉り、君民一體以
て克く國運の隆昌を致せり。
拔戦陣の將兵、宜しく我が國體の本義を體得し、牢固不
持し、誓つて皇國守護の大任を完遂せん。

本

訓 其の一

第二 皇國

軍隊手牒ハ軍人ノ常ニ服膺スヘキ勅諭勅語ヲ
掲載スルヲ以テ最モ丁寧ニ取扱ヒ苟モ汚穢破
損スヘカラサルハ勿論各自ノ履歴ヲ掲ケ且轉
隊派遣等ニ際シ金錢物品ノ受授ヲ證スルモノ
ナレハ大切ニ所持シ紛失セサル様注意スヘキ
事ト

記注シタル金錢物品受授其他ノ事項ニシテ事

十六

西北方高地附近戰斗於前額部砲彈

破片創

死

履歴

昭和拾七年參月廿八日 戰死

病死ハ死

同日夏第九五三部隊奉行隊編入同日編成完
成。翌作命第一號ニ依リ二月十三日出發。七月
西日本港出發。七月十九日基隆港上陸。
同日台北宣傳局員山主音員山主音
同日台北宣傳局員山主音員山主音
同日台北宣傳局員山主音員山主音
昭和七年一月一日ルニ島根ガエニ度アラ上
陸。同日サンヌビアニス有。一日ハ自デナビアン
看。二月十一日任陸軍衛生伍長。三月三十一日任陸軍
同日第大隊本部附。同日呂宗島バニアリヤニ
衛生軍曹。同日呂宗島バニアリヤニ
同日呂宗島バニアリヤニ

2 聞き書きに協力してくださった方々

氏名(年令)	住所	聞き書きをした生徒
2年A組		
山岡ヨシ子(68)	広小坪1丁目42-11	飯田のぞみ、岡田 愛子
山中ハツセ(84)	広小坪1丁目58-1	飯田のぞみ、岡田 愛子
永浜森一(72)	広小坪1丁目37-3	飯田のぞみ、岡田 愛子
谷口誠一(76)	仁方錦町 18-12	飯田のぞみ、岡田 愛子
川岡義信(76)	広小坪1丁目64-16	飯田のぞみ、岡田 愛子
元田顕二(70)	広小坪1丁目61-16	飯田のぞみ、岡田 愛子
長岡スミエ(72)	広小坪1丁目63-1	池田 通子、萬谷 梨恵
土本豊子(71)	広小坪1丁目73-9	池田 通子、萬谷 梨恵
小松光恵(74)	広小坪1丁目14-8	池田 通子、萬谷 梨恵
大石沢人(82)	広小坪 14-5	池田 通子、萬谷 梨恵
池田満(74)	広小坪1丁目38-2	池田 通子、萬谷 梨恵
池田清子(66)	広小坪1丁目38-2	池田 通子、萬谷 梨恵
長岡ハナヨ(80)	広小坪1丁目63-12	池田 通子、萬谷 梨恵
山中歌子(72)	広小坪1丁目32-8	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
松岡ユク江(58)	広小坪1丁目47-1	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
植木盛登(83)	広小坪1丁目 4-7	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
西本数三(75)	広小坪1丁目 2-11	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
大田英雄(60)	広小坪2丁目 3-2	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
新田辰雄(66)	広小坪1丁目 5-12	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
松本武夫(81)	広小坪1丁目 2-7	越智真奈美、濱田 英里、横道みゆき
岡本水子()	広小坪1丁目20-12	角野 育子、中原 紵美
沖田正輝(65)	広小坪1丁目38-17	貞廣 由香、辻 佳子
土取ヨシ子(67)	広長浜4丁目10-11	谷生 清香、長浜 朱美、山城 沙季
荒谷政俊(75)	広長浜3丁目14-44	谷生 清香、長浜 朱美、山城 沙季
向井友行(73)	広長浜4丁目13-3	徳岡 次子、山根かなえ
魚住下枝(80)	広長浜5丁目 1-9	徳岡 次子、山根かなえ
森岡マツエ(85)	広長浜5丁目 9-14	徳岡 次子、山根かなえ
木村 広道(82)	広長浜5丁目10-30	徳岡 次子、山根かなえ

氏名(年令)	住所	聞き書きをした生徒		
木村 澄子(65)	広長浜4丁目 7-2	徳岡	次子、山根かなえ	
立石 秋三(76)	広長浜4丁目 6-14	徳岡	次子、山根かなえ	
徳岡 徳義(91)	広長浜2丁目13-28	徳岡	次子、山根かなえ	
石田 ゆき(76)	広小坪1丁目	石垣	誠、佐々木亮介	
中田 繁子(66)	広小坪1丁目20-17	石垣	誠、佐々木亮介	
西田 正秋(80)	広長浜1丁目 8-6	尾屋家勇氣、秦	宏和	
西田 松之(72)	広長浜1丁目 8-6	尾屋家勇氣、秦	宏和	
浜田 美都子(77)	広長浜5丁目 6-15	尾屋家勇氣、秦	宏和	
浜谷 順次(68)	広小坪1丁目38-15	小島	一兵、山田	真
矢野下伝三郎(88)	広長浜3丁目14-35	河野	真典、中村	潤、林 大介
匿名		新田	洋介、広井	隆明
藤脇 康夫(52)	広津久茂町 8-5	藤脇	祐二、益田	龍二
匿名		三原	広志、三好	耕平
浜田 種三(74)	広小坪1丁目58-4	三原	広志、三好	耕平
此本 四郎(60)	広小坪1丁目49-3	三原	広志、三好	耕平
2年B組				
門田 サナエ(61)	広小坪2丁目 6-10	碓井	絃美、實成	貴子
松本 武夫(81)	広小坪1丁目 2-7	碓井	絃美、實成	貴子
西本 数三(75)	広小坪1丁目 2-11	碓井	絃美、實成	貴子
河内 ヨシエ(80)	広長浜4丁目10-6	池田	千恵、山口	慶子
山口 春雄(76)	広小坪4丁目 4-13	池田	千恵、山口	慶子
山口 富士子(69)	広小坪4丁目 4-13	池田	千恵、山口	慶子
尾原 シヅヨ(87)	広長浜4丁目 7-13	池田	千恵、山口	慶子
河野 チズコ(64)	広長浜4丁目14-39	池田	千恵、山口	慶子
池田 秀登(79)	広長浜4丁目12-10	池田	千恵、山口	慶子
萩原 貢(65)	広長浜4丁目14-36	池田	千恵、山口	慶子
津々 正人(74)	広長浜1丁目14-31	津々	まや、湯浅	薰
津々 トミエ(68)	広長浜1丁目14-31	津々	まや、湯浅	薰
藤井 サトノ(66)	広長浜1丁目11-2	津々	まや、湯浅	薰
藤井 政夫(71)	広小坪1丁目 7-6	津々	まや、湯浅	薰
高島 文三(62)	広小坪	津々	まや、湯浅	薰

氏名(年令)	住所	書きをした生徒		
高島 文三(62)	広小坪	津々	まや、湯浅	薰
横畠 友子(61)	広長浜1丁目 7-13	津々	まや、湯浅	薰
高島 修和()	広長浜1丁目 3-7	津々	まや、湯浅	薰
松田 勇(61)	広小坪2丁目 7-11	佐々木有弓、西田	佳世、藤嶋	麻由
梶山 義政(71)	広小坪1丁目 61-31	佐々木有弓、西田	佳世、藤嶋	麻由
青野 幸子(61)	広小坪2丁目 7-3	佐々木有弓、西田	佳世、藤嶋	麻由
西田 整(64)	広小坪2丁目 6-5	佐々木有弓、西田	佳世、藤嶋	麻由
篠原 良子(64)	広小坪2丁目 2-7	佐々木有弓、西田	佳世、藤嶋	麻由
峠 つきえ(63)	広小坪1丁目 44-11	古屋	智子、由良	瞳
山岡 重王(68)	広小坪1丁目 42-11	古屋	智子、由良	瞳
平山 一夫(68)	広小坪1丁目 38-10	古屋	智子、由良	瞳
平山 智恵子(63)	広小坪1丁目 38-10	古屋	智子、由良	瞳
半田ハツエ(77)	広小坪1丁目 4-15	古屋	智子、由良	瞳
平岡トヨノ(81)	広小坪1丁目 17-9	古屋	智子、由良	瞳
岡本ハヤコ(82)	広小坪1丁目 5-10	古屋	智子、由良	瞳
岡本 義春(71)	広小坪1丁目 5-10	古屋	智子、由良	瞳
岡本 文枝(63)	広小坪1丁目 5-10	古屋	智子、由良	瞳
土本 学(76)	広小坪1丁目 63-26	古屋	智子、由良	瞳
新田 芳子(58)	広小坪1丁目 5-13	道浦	美代、平尾	江美
村井テルミ(61)	広小坪1丁目 17-15	道浦	美代、平尾	江美
宮川 市三(72)	広小坪1丁目 5-11	道浦	美代、平尾	江美
半田ハツエ(77)	広小坪1丁目 4-15	道浦	美代、平尾	江美
浜本 清子(68)	広小坪1丁目 19-18	道浦	美代、平尾	江美
新田 辰雄(66)	広小坪1丁目 5-12	道浦	美代、平尾	江美
川本フジ子(66)	広小坪1丁目 4-23	道浦	美代、平尾	江美
宮田 清太(70)	広小坪1丁目 5-13	道浦	美代、平尾	江美
中井 文雄(76)	広長浜3丁目 10-28	竹下	恵、吉本	千夏
石井 克義(73)	広長浜3丁目 10-19	竹下	恵、吉本	千夏
竹下 一彦(73)	広長浜3丁目 6-3	竹下	恵、吉本	千夏
尾茂田 隆(66)	広津久茂町 8-4	竹下	恵、吉本	千夏
藤本 幸信(69)	広津久茂町 1-26	竹下	恵、吉本	千夏

氏名(年令)	住所	書きをした生徒		
藤本 幸信(69)	広津久茂町 1-26	竹下	恵、吉本	千夏
滝口 敏江(73)	広津久茂町 1-48	竹下	恵、吉本	千夏
池庄司トミ子(66)	広長浜3丁目 12-21	竹下	恵、吉本	千夏
藤本 昭博(65)	広津久茂町 7-15	竹下	恵、吉本	千夏
橋村 忠人()	広長浜5丁目 2-3	青木	等、荒本	直樹
橋村 サツエ(66)	広長浜5丁目 2-3	青木	等、荒本	直樹
飯沼 義信(75)	広長浜2丁目 6-1	青木	等、荒本	直樹
石田 文子(66)	広長浜2丁目 2-14	青木	等、荒本	直樹
石井 浪夫(80)	広長浜3丁目 14-61	青木	等、荒本	直樹
鈴木 ハルヨ(81)	広長浜3丁目 15-46	石田	大輔、宇都宮	修
宇都宮 靖一(82)	広長浜3丁目 7-8	石田	大輔、宇都宮	修
上藤 俊光(64)	広長浜2丁目 11-16	石田	大輔、宇都宮	修
新田 瞳(80)	広小坪1丁目 14-6	竹本	理、田中	彰
浜元 好夫(47)	広小坪1丁目 38-28	竹本	理、田中	彰
福間 義勝(43)	広小坪1丁目 37-23	竹本	理、田中	彰
北倉 武春(62)	広小坪1丁目 37-10	竹本	理、田中	彰
松本トキミ(85)	広小坪1丁目 22-7	竹本	理、田中	彰
石田 ユキ(77)	広小坪1丁目 5-13	竹本	理、田中	彰
浜中 和之(62)	広小坪1丁目 12-46	竹本	理、田中	彰
碓氷 紘美(81)	広小坪1丁目 36-18	猪原	光昭、仲村	和憲、船越 雅弘
柳尾 美和子(66)	広小坪1丁目 2-52	猪原	光昭、仲村	和憲、船越 雅弘
山崎 良子(73)	広長浜3丁目 7-6	宗田	法和、山本	真義
山崎 サツエ(75)	広長浜2丁目 12-13	宗田	法和、山本	真義
西本 好文(67)	広長浜1丁目 7-11	宗田	法和、山本	真義
吉田 仁彦(59)	上畠町 6-47	宗田	法和、山本	真義
西田 ハルエ(76)	広長浜1丁目 7-14	宗田	法和、山本	真義
刈山 年雄(70)	広長浜4丁目 14-16	宗田	法和、山本	真義
匿名		新口	浩司、竹谷	智樹
石井 波夫(80)	広長浜3丁目 14-61	新富	彰、半澤	友胤

おわりに

生まれ育った長浜・小坪の「第二次大戦体験の聞き書き」で衝撃を受けた生徒達は、「自分たちが知り得、託されたものを、自分たちのためだけでなく後輩達に伝えるためにもぜひ記録として残したい。」と願いました。そして、「聞き書き」を整理し、まとめたのがこの冊子です。貴重な証言だから全てを残したい、という方針で編集しました。「中学生が行った一つの地域の聞き書きの記録」という性格上、当時を総合的に知るためにには確かに一面的であり不十分でもあります。しかし、読み返すにつけ、戦争が強いた犠牲の大きさと、その上に築かれた平和の重みをしみじみと実感します。

「聞き書き」では、延べ131の方に快く御協力いただきました。本当に有難うございました。また、11月16日付朝日新聞に記事が掲載されたこともあり、文化祭には、150人以上の地域の方々がお忙しい中展示を見学くださいました。改めて御礼申し上げます。「聞き書き」に協力してくださったのは70代が最も多く、ほとんどが60代以上の方です。この時にはお元気でありながら、三ヶ月後の今、すでに何人かが亡くなられています。「受け継ごう50年目の平和を」という生徒達の決意を御報告しながら、謹んで御冥福をお祈りいたします。

1995年(平成7年)1月15日

編集者 大倉新吾
保田えり子
福吉美香

「受け継ごう50年目の平和を」

—長浜・小坪の「第二次大戦体験聞き書き」から—

1995年1月15日 印刷

編 集 大倉 新吾
保田えり子
福吉 美香

印 刷 学校印刷
印刷紙・大王製紙 寸法257×364mm
連重(6)kg

製 本 二葉孔版

発行所 吳市立長浜中学校

〒737-01 吳市広長浜4丁目1番9号

☎ (0823)71-7920



